

Ι.	グローバル・フォーラムとは何か	·· 1
1	. 挨拶	2
2	. 目的	3
3	. 組織	3
4	. 歴史	3
5	. これまでの歩み	4
6	. 世話人・メンバー名簿	10
7	. 規約	11
${\rm I\hspace{1em}I}$.	2017年度の4つの「対話」	··13
1	. 日中対話「少子高齢化時代の日中協力のあり方」	···14
2	. 日米対話「トランプ政権時代の日米同盟:岐路か継続か」	16
3	.日・ASEAN対話「変容するアジア太平洋地域秩序と日・ASEAN協力」 ······	18
4	. 中央アジア+日本対話「日・中央アジア関係の今と未来を展望する」	20
Ⅲ.	2017年度のその他の活動	··23
1	. 国際政経懇話会	24
2	. 外交円卓懇談会	26
3	. 「補佐人会」「世話人会・拡大世話人会」	28
4	. e-論壇「議論百出」の運営等	29
5	. 『グローバル・フォーラム会報』の発行	37
6	. ホームページの運営(日本語・英語)	…41
7	. メールマガジンの発行(日本語・英語)	43
8	. 出版刊行	44
IV.	An Introduction to GFJ ·····	45

I. グローバル・フォーラムとは何か

1.	挨拶	2
2.	目的	3
3.	組織	3
4.	歴史	3
5.	これまでの歩み	4
6.	世話人・メンバー名簿 1	0
7.	規約	1

1. 挨拶



伊藤憲一 GFJ 代表世話人挨拶

当フォーラムは1982年に日米欧加の政財官学界の有志がワシントンに集まって結成した「四極フォーラム (Quadrangular Forum)」に源流をもつ政策志向の知的交流組織です。「四極フォーラム」それ自体は「冷戦の終焉」とともにその役割を終え、1990年に解散しましたが、そのときの「四極フォーラム」の「日本会議 (Japan Chapter)」のメンバーが、日本を中心として全世界に放射線状の「対話」を展開する組織として再結集したのが「グローバル・フォーラム(Global Forum of Japan)」です。以来、日本の人脈を着実に世界に広げる数少ない国際交流組織の一つとして世界各国、各地域との「対話」を積み重ねてきましたが、21世紀に入り、世界はいよいよ激しく揺れ動いています。そのようなときであればこそ、「継続は力なり」という言葉を信じて、世界と日本の相互理解を深めるための地道な役割を果たしてゆきたいと思っています。



渡辺 繭 GFJ 執行世話人挨拶

このたびグローバル・フォーラムの執行世話人に就任いたしました。皆様のご指導を仰ぎながら微力を尽くしてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。今日、世界は益々混迷の度合いを深め、第二次世界大戦以降、国際社会の平和と繁栄を支えてきた国際秩序のあり方がさまざまな挑戦を受け、不透明な変化に直面しています。当フォーラムは、これまで35年にわたり、米国、中国、ASEAN など世界の主要な国や地域との交流や対話を積極的に展開するとともに、中央アジア、黒海など日本にとって戦略的重要性の高い諸地域との民間外交の先陣を切って、強靭なネットワークを形成してまいりました。そのネットワークは日本の国際社会におけるプレゼンス向上と価値発信のための他に類のない貴重な財産といえますが、混迷する世界においてその役割は今後ますます重要になるものと考えております。引き続き、みなさまのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2. 目的

グローバル・フォーラムは、冷戦時代の1982年に西側内部(日米欧加 4 極)の非公式な意思疎通のパイプとして設立された「四極フォーラム(Quadrangular Forum)」の「日本会議(Japan Chapter)」に淵源をもつ 知的国際交流組織である。

3. 組織

グローバル・フォーラムは、民間、非営利、非党派、独立の立場に立つ政策志向の知的国際交流のための会員制の任意団体である。事務局は公益財団法人日本国際フォーラム内に置くが、日本国際フォーラムを含め「いかなる組織からも独立した」存在である。四極フォーラム日本会議は、1982年に故大来佐武郎、故武山泰雄、故豊田英二、故服部一郎の呼びかけによって設立されたが、その後グローバル・フォーラムと改名し、現在の組織は、伊藤憲一代表世話人、渡辺繭執行世話人、高畑洋平常任世話人・事務局長のほか、石川洋、豊田章一郎、茂木友三郎、矢口敏和の4経済人世話人および10名の経済人メンバー、柿沢未途、小池百合子、末松義規、鈴木馨祐、船田元の5政治家世話人および10名の政治家メンバー、そして伊藤剛、神谷万丈、高原明生の3有識者世話人および50名の有識者メンバーから成る。

4. 歴史

1982年のベルサイユ・サミットは「西側同盟に亀裂」といわれ、硬直化、儀式化したサミットを再活性化するために、民間の叡智を首脳たちに直接インプットする必要が指摘された。日米欧加の四極を代表した大来佐武郎元外相、ブロック米通商代表、ダビニヨン EC 副委員長、ラムレイ加貿易相の4人が発起人となって1982年9月にワシントンで四極フォーラム(The Quadrangular Forum)が結成されたのは、このような状況を反映したものであった。その後、冷戦の終焉を踏まえて、四極フォーラムは発展的に解散し、代わって1991年10月ワシントンにおいて日米を運営の共同主体とするグローバル・フォーラムが新しく設立された。グローバル・フォーラムは、四極フォーラムの遺産を継承しつつ、日米欧加以外にも広くアジア・太平洋、ラテン・アメリカ、中東欧、ロシアなどの諸国をも対話のなかに取りこみながら、冷戦後の世界の直面する諸問題について国際社会の合意形成に寄与しようとした。この間において、グローバル・フォーラム運営の中心はしだいにグローバル・フォーラム米国会議(事務局は戦略国際問題研究センター内)からグローバル・フォーラム日本会議(事務局は日本国際フォーラム内)に移行しつつあったが、1996年に入り、グローバル・フォーラム米国会議がその活動を停止したため、同年2月7日に開催されたグローバル・フォーラム日本会議世話人会は、今後独立して日本を中心に全世界と放射線状に対話を組織、展開してゆくとの方針を打ち出し、新しく規約を定めて、今後は「いかなる組織からも独立した」組織として、「自治および自活の原則」により運営してゆくことを決定し、名称も「グローバル・フォーラム(Global Forum of Japan)」と改めた。

5. これまでの歩み

四極フォーラム日本会議時代(1982年9月~1991年4月)

1982年	2年 9月 ジョージタウン戦略研究所主催日米欧加四極会議(於:ワシントン)			
	3月	第1回四極フォーラム日本会議総会(設立総会)(共催:米戦略国際問題研究所 [CSIS]、欧州政策研究所、カナダ公共政策研究所)(於:帝国ホテル)		
1983年	4月	第1回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ワシントン)		
	6月	中曽根首相への報告と意見具申 (於:総理官邸)		
1004年	3月	第2回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ワシントン)		
1984年	6月	中曽根首相への報告と意見具申 (於:総理官邸)		
1005年	4月	第3回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ブラッセル)		
1985年	4月	中曽根首相への報告と意見具申 (於:総理官邸)		
100¢#:	4月	第4回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ホテルオークラ、大磯プリンスホテル)		
1986年	4月	中曽根首相主催茶会(於:総理官邸)		
1987年	4月	月 第5回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ワシントン)		
1988年	4月	第6回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:トロント)		
1988平	5月	竹下首相への報告と意見具申 (於:総理官邸)		
1000年	3月	第7回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ブラッセル)		
1989年	6月	「日本会議アピール」を宇野総理大臣に提出、同時に記者会見(於:日本記者クラブ)		
1000年	6月	第8回日米欧加四極フォーラム年次総会(於:ワシントン)		
1990年	7月	「日本会議アピール」を海部総理大臣に提出、同時に新聞発表		

グローバル・フォーラム日本会議時代 (1991年5月~1995年12月)

1991年	5月	グローバル・フォーラム日本会議第1回総会(於:赤坂プリンスホテル)
1991平	10月	グローバル・フォーラム第1回世界大会(於:ワシントン)
	5月	「環境問題」国際起草委員会(共催:CSIS)(於:ワシントン)
	6月	「アジア協力問題」国際起草委員会(共催:CSIS)(於:赤坂プリンスホテル)
1992年	7月	「地域主義問題」国際起草委員会(共催:CSIS)(於:ワシントン)
	10月	キッシンジャー米元国務長官、羽田孜大蔵大臣等を基調報告者とし、12カ国1国際機関より 総勢31名を迎えて、第1回諮問総務会(共催:CSIS)を開催(於:トヨタ紀尾井倶楽部)
	5月	「地域主義問題」国際起草委員会(共催:CSIS)(於:国際文化会館)
	6月	「社会主義経済の市場経済への移行」国際起草委員会(共催:CSIS)(於:ワシントン)
1993年	12月	ジョン・ロックフェラー米上院議員を基調報告者とし、12カ国2国際機関より総勢34名を迎えて、第2回諮問総務会(共催:CSIS)を開催(於インターナショナル・クラブ、ワシントン)。 ハン・スンスー在米韓国大使主催夕食会(於:大使公邸)
1004年	6月	24名の参加を得て、第1回日米対話「雇用と世界経済」を開催(共催:CSIS)(於:国際文化会館)
1994年	9月	第2回日米対話「貿易システムの将来」(共催: CSIS) (於: 国際文化会館)

	9月	日欧対話「ロシアの将来:そのアジアとヨーロッパにとっての意味」(共催:東西研究所欧州研究センター)(於:国際文化会館)
1994年	10月	第1回日米韓対話「金日成後の北朝鮮」(共催: CSIS) (於: ワシントン)
1001	11月	9カ国より河野洋平外務大臣、レス・アスピン前米国防長官ほか54名の参加を得て、第3回 諮問総務会「来るべき太平洋の世紀:神話と現実」(共催: CSIS) を開催(於: トヨタ紀尾 井倶楽部)
	1月	第5回世話人会(於:ホテルオークラ)
	7月	第3回日米対話「中国の将来」(共催:CSIS) (於:国際文化会館)
1995年	9月	日欧対話「EU と APEC: 世界経済にとっての意味」(共催: ジュネーブ高等国際問題研究所) (於: 国際文化会館)
	10月	第2回日米韓対話「北朝鮮の展望:趨勢と論点」(共催: CSIS) (於: 国際文化会館)
	12月	14カ国3国際機関より総勢61名を迎えて、第4回諮問総務会(共催: CSIS)を開催(於:マジソン・ホテル、ワシントン)

グローバル・フォーラム時代 (1996年1月~至現在)

	5月	日欧対話「地球規模の諸問題をめぐる日欧協力の可能性」 (共催:オランダ・クリンゲンダール国際関係研究所)(於:国際文化会館)		
	9月	「日比交流の夕べ」(於:東京全日空ホテル)		
1996年	10月	日印対話「21世紀における日印協力の展望」(共催:インド国防問題分析研究所)(於:国際 文化会館)		
	11月	96名の参加を得て、第1回東京円卓会議「アジアにおける勢力均衡の変化」を開催 (共催:米国シカゴ外交評議会)(於:東京全日空ホテル)		
	12月	国際交流の夕べ「チェチェンの声を聞く」ホザメド・ヌハーエフ・チェチェン共和国第一副 首相(於:ホテル・オークラ)		
	3月	プラセート・チティワタナポン・タイ・タマサート大学准教授を迎えて、第11回総会および 国際交流の夕べ「変化するアジア太平洋の戦略環境」を開催(於:ホテル・オークラ)		
1997年	5月	日欧対話「変化する世界における国家と民族」(共催:独国際問題安全保障研究所)(於:国際文化会館)		
19974	9月	第1回日米対話「中台港三角関係の展望」(共催:米国マンスフィールド太平洋問題研究センター)(於:国際文化会館)		
	11月	第2回東京円卓会議「変化する世界におけるアジア太平洋の課題:貿易と安全保障」 (共催:米国アジア財団)(於:東京全日空ホテル)		
	2月	第12回総会および明石康前国連事務次長を囲む夕べ「国連とともに生きた40年」(於:ホテル・オークラ)		
1000年	5月	日欧対話「欧州の将来とアジア、特に日本」(共催:ベルギー欧州政策研究センター)(於: 国際文化会館)		
1998年	9月	第1回日中対話「アジアの安定と日中両国の役割」(共催:中国国際友好連絡会)(於:国際 文化会館)		
	11月	第3回東京円卓会議「21世紀世界秩序の形成:政治と経済」(共催:米国ジョージア工科大学国際戦略技術政策センター)(於:東京全日空ホテル)		
1999年	2月	2月 第13回総会及び小和田恒前国連日本政府代表部常駐代表を囲む夕べ「日本の外交」 (於:ホテル・オークラ)		

	5月	第2回日米対話「法の支配とそのアジアにおける受容」(共催:米国マンスフィールド太平 洋問題研究センター)(於:国際文化会館)
1999年	7月	日欧対話「中東欧におけるNATO・EU拡大の影響」(共催:ルーマニア王立政治行政大学院) (於:国際文化会館)
	11月	第1回日台対話「21世紀の国際社会における台湾の役割」(共催:台湾中華欧亜教育基金会) (於:国際文化会館)
	1月	『グローバル・フォーラム会報』創刊、グローバル・フォーラム・ホームページ開設
	2月	第14回総会およびマックス・ヴァン・デル・ストール元オランダ外相を囲む夕べ「民族紛争 と予防外交」(於:ホテル・オークラ)
2000年	5月	日欧対話「EUの選択と日本」(共催:英国王立国際問題研究所)(於:国際文化会館)
2000	7月	第2回日中対話「新世紀のアジア情勢と日中関係」(共催:中国国際友好連絡会)(於:国際文化会館)
	12月	第1回日韓対話「日本と韓国:新たなパートナーシップのための基盤の構築」(共催:ソウル国際問題フォーラム)(於:国際文化会館)
	2月	第15回総会及び西尾幹二氏を囲む夕べ「古代日本は既に国家であり文明圏であった」 (於:ホテル・オークラ)
2001年	5月	第3回日米対話「米国新政権下における日米安全保障関係」(共催:米国マンスフィールド 太平洋問題研究センター)(於:国際文化会館)
	7月	第2回日台対話「21世紀のアジア・太平洋地域における日台の役割」(共催:台湾中華欧亜 教育基金会)(於:国際文化会館)
	1月	第16回総会およびジェラルド・カーティス氏を囲む夕べ「9月11日以降のアメリカと日米関係」(於:ホテル・オークラ)
	2月	伊藤憲一世話人事務局長他、来日したイオン・イリエスク・ルーマニア大統領と会見 第1回日・ASEAN対話「日本とアセアン:アジア・太平洋地域の平和と繁栄のための協力」 (共催:ASEAN戦略国際問題研究所連合[ASEAN-ISIS])(於:国際文化会館)
2002年	5月	第3回日中対話「世界の中の日中関係」(共催:中国国際友好連絡会)(於:国際文化会館)
	9月	日豪対話「日本とオーストラリア:アジア太平洋地域における協力の展望」 (共催:オーストラリア・コンソーシアム)(於:国際文化会館)
	11月	第2回日韓対話「東アジアの将来と日韓協力の可能性」(ソウル国際問題フォーラム)(於: 国際文化会館)
	1月	第2回日・ASEAN対話「日本とアセアン:アジア・太平洋地域の平和と繁栄のための協力」(共催:ASEAN-ISIS)(於:国際文化会館)
2003年	4月	第4回日米対話「アジアにおけるアントレプレナーシップ」(共催:米国マンスフィールド 太平洋問題研究センター)(於:国際文化会館)
	10月	第3回日台対話「アジア太平洋地域の新情勢と日台協力」(共催:台湾中華欧亜基金会) (於:国際文化会館)
	1月	第17回総会およびスーザン・ファー・ハーバード大学教授を囲む夕べ(於:国際文化会館)
	7月	第3回日・ASEAN対話「東アジア共同体へのロードマップ」(共催:ASEAN-ISIS) (於:国際文化会館)
2004年	9月	第4回日中対話「東アジア共同体の展望と日中関係」(共催:中国国際友好連絡会)(於:国際文化会館)
	11月	日米韓対話「朝鮮半島の将来と日米韓安全保障協力」(共催:米国タフツ大学フレッチャー・ スクール外交政策分析研究所、韓国延世大学国際大学院)(於:国際文化会館)

	1月	第18回総会および韓昇洙元韓国副首相を囲む夕べ(於:東京全日空ホテル)
2005年	4月	日韓政策対話「東アジア共同体の展望と日韓協力」 (共催:東アジア共同体評議会、韓国大統領諮問東北アジア時代委員会)(於:虎ノ門パストラル)
2005-	6月	第4回日・ASEAN対話「東アジア共同体への展望と地域協調」 (共催:ASEAN-ISIS) (於:虎ノ門パストラル)
	11月	第1回日本・黒海地域対話「黒海地域の平和・繁栄と日本の役割」 (共催:静岡大学、黒海大学基金、国際黒海問題研究所)(於:日本国際フォーラム会議室)
	2月	日台対話「日台関係の現状と今後の展望」(共催:台湾国際研究学会)(於:虎ノ門パストラル)
2006年	6月	第1回日米アジア対話「東アジア共同体と米国」 (共催:米パシフィック・フォーラムCSIS)(於:虎ノ門パストラル)
	9月	第5回日・ASEAN対話「東アジア・サミット後の日・ASEAN戦略的パートナーシップの展望」(共催:ASEAN-ISIS)(於:国際文化会館)
	1月	日中対話「日中関係とエネルギー・環境問題」 (共催:中国現代国際関係研究院、国家発展改革委員会能源研究所)(於:国際文化会館)
9007/1:	6月	日米対話「21世紀における日米同盟」(共催:全米外交政策委員会)(於:日本国際フォーラム会議室)
2007年	7月	第6回日・ASEAN対話「新時代の日本とASEANの挑戦」(共催:ASEAN-ISIS) (於:国際文化会館)
	11月	第2回日・黒海地域対話「激動する世界における日本と黒海地域」 (共催:静岡県立大学、黒海経済協力機構、駐日トルコ大使館)(於:国際交流基金国際会議場)
	1月	第2回日米アジア対話「東アジア共同体と米国」 (共催:米パシフィック・フォーラムCSIS)(於:国際文化会館)
9000年	6月	日・東アジア対話「東アジアにおける環境・エネルギー協力の展望」 (共催:シンガポール国立大学東アジア研究所)(於:国際文化会館)
2008年	7月	第1回日中対話「新段階に入った日中関係」 (共催:中国現代国際関係研究院日本研究所)(於:日本国際フォーラム会議室)
	9月	第7回日・ASEAN対話「『東アジア協力に関する第二共同声明』後の日・ASEANパートナーシップの展望」(共催:ASEAN-ISIS)(於:国際文化会館)
	4月	日米対話「オバマ新政権下での日米関係」(共催:全米外交政策委員会)(於:日本国際フォーラム会議室)
2009年	6月	第2回日中対話「変化する世界と日中関係の展望」 (共催:中国現代国際関係研究院日本研究所)(於:日本国際フォーラム会議室)
	9月	第8回日・ASEAN対話「経済・金融危機における日・ASEAN協力」 (共催:ASEAN-ISIS)(於:国際文化会館)
	1月	第3回日・黒海地域対話「変化する黒海地域の展望と日本の役割」 (共催:黒海経済協力機構)(於:国際文化会館)
ባለ1 <i>ለት</i> ተ	2月	日中対話「21世紀における日中環境協力の推進:循環型社会の構築に向けて」 (共催:北京師範大学環境学院)(於:日本国際フォーラム会議室)
2010年	5月	日米対話「非伝統的安全保障における日米協力の推進:海賊対策をめぐって」 (共催:全米アジア研究所)(於:国際文化会館)
	9月	日印対話「東アジアのアーキテクチャーと日印関係」 (共催:インド商工会議所連盟)(於:日本国際フォーラム会議室)

2月 日本対話「スマート・パワー時代における日本関係」(共催:来戦略国際問題研究所)(於:国際文化会館) 2月 日・東アジア対話「変動する東アジアと地域協力をめぐる新視点」 (共催:ベトナム国立大学国際関係学部)(於:同際文化会館) 7月 (共催:政験研究大学院大学他)(於:政策研究大学院大学想海機ホール) 7月 (共催:政験研究大学院大学他)(於:政策研究大学院大学想海機ホール) 7月 (共催:中国現代国際関係研究院)(於:日本国際フォーラム会議室) 日米中対話「変容するアジア太平洋地域と日米中関係」((共催:復旦大学)(於:国際文化会館) 世界との対話「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」(共催:復旦大学)(於:国際文化会館) 日・ASEAN対話「ASEAN統合の未来と日本の役割」(共催:名SEAN戦略国際問題研究所)(於・アイビーホール) 10月 第 1回「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室) 日・ASEAN対話「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室) 1月 日・関海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室) 1月 日・関海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室) 日・門対話「未来志向の日中関係の構築に向けて」(共催・北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館) 日・黒海地域対話「日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催・黒海経済協力機構)(於:国際文化会館) 1月 日・豊藤連は対話「日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催・黒海経済協力機構)(於:国際文化会館) 1月 日・公日が対話「最近は対話」(日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催・東部経済協力機構)(於:国際文化会館) 1月 日・対話「第空間」の日中信額確或に向けて」(共催・フシントン・カレッジ国際研究所)(於:国際文化会館) 1月 日・対話「新空間」の日中信額確或に向けて」(共催・中国際フォーラム)(於:国際文化会館) 1月 日・対話「新空間」の日中信額確或に向けて」(共催・中国際フォーラム)(於:日本国際フォーラム会議室) 1月 日・東方子・大学が対話「がフートランジションの中のアジア太平洋(種庭の時代なのか)(共 催・明治大学、西文ドニー大学他)(於・明治大学のローバル・ホール) 日・東方部「新文ドライン時代の日米同盟」(共催・平国での発展の系統所)(於:日本更大学の表述と解析が大学、国際文化会館) 日・東方部「新文ドライン時代の日米同盟」(共催・平国現代国際関係研究院)(於:日本更大学の表述と経済発展のための機構(GUAM」)(於:国際文化会館) 7月 第全国印・GUAM対話「散動する世界における日・GUAM関係」(共催:「以主主義と経済発展のための機構(GUAM」)(於:国際文化会館) 第 第 2 回日・GUAM対話「散動する世界における日・GUAM関係(共催:「以主主義と経済発展のための機構(GUAM」)(於:国際文化会館) 第 第 2 回日・GUAM対話「散動する世界における日・GUAM関係(5 年間に対する場所の表述を対する場所がありまれば、対する場所がありまれば、対する場所がありまれば、対するとは、対するのは対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対するのは、対する								
2011年 1月 (共催:ベトナム国立人学国際関係学部)(於:国際文化会館) 1月 (共催:政策研究大学院大学他)(於:政策研究大学院大学地) (共催:政策研究大学院大学地) (共催:政策研究大学院大学地) (共催:政策研究大学院大学地) (共催:知事研究上受院) (共催:知事研究上受院) (共催:知事研究上受院) (共催:知事对部「要容するアジア太平洋地域と日米中関係」 (共催:为一本年一国院下和財団他)(於:国際文化会館) 世界との対話「新興国の白頭とグローバル・ガバナンスの特来」(共催:復旦大学)(於:国際文化会館) 日本 A S E A N 教育 「A S E A N 教育の未来と日本の役割」(共催:名 S E A N 戦略国際問題研究所達合)(於:国際文化会館) 日本 対話「日本同型の新段階:国際公共財の供給者へ」(共催:米国防大学国家戦略研究所)(於アイビーホール) 10月 第 1回「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室) 日中対話「日来に同型の新段階:国際公共財の供給者へ」(共催:北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館) 日中対話「未来志向の日中関係の構築に向けて」(共催:北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館) 日・黒海地域対話「日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催:北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館) 1月 「日本 G U A M 対話「民主主義と経済発展のための日・G U A M 関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための間・G U A M 関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための機構)(於:国際文化会館) 日中対話「新教理」の日中信頼機成に向けて」(共催:日本国際フォーラム)(於:国際文化会館) 日中対話「変容する国際・国内情勢の下での日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所他)(於:国際アメーシ会会議室) 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共作・明本大学の上がル・ホール) 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共作・明本大学の上がル・ホール) 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共作・明本大学の大学の上がル・ボール) 日・アジア大平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共作・明本大学の大学の上がル・ホール) 日・アジア大平洋対話「がオートライン時代の日米同盟」(共催:米国防人学国家戦略研究所)(於:国際文化会館) 中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共能・発表を開め、第 2 回日・G U A M 対話「敵助する世界における日・G U A M 関係」(共作:「民主主義と経済発展のための機構(G U A M J)(於:国際文化会館) 中、アジア・アジア・アジア・アジアの今:チャンスとチャレンジ」(大能・東京ジア・アジア・アジア・アジアの今:チャンスとチャレンジ」(大能・東京ジア・アジア・アジアの今:チャンスとチャレンジ」(大能・清が大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大		2月						
7月 実急対話「東日本大震災と防災協力のあり方」 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1	9011 <i>t</i> r:	2月						
10月 (共催:中国現代国際関係研究院) (於:日本国際フォーラム会議室)	2011平	7月						
2012年 世界との対話「新興国の台頭とクローバル・ガバナンスの将来」(共催:復旦大学)(於:国際文化会館)		10月						
3月 際文化会館		2月						
9月	2012年	3月	祭文化会館) 日・ASEAN対話「ASEAN統合の未来と日本の役割」(共催:ASEAN戦略国際問					
11月 第2回「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室)		9月						
2013年 2013年 2月 日中対話「未来志向の日中関係の構築に向けて」(共催:北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館) 2月 日・黒海地域対話「日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催:黒海経済協力機構)(於:国際文化会館) 5月 日・GUAM対話「民主主義と経済発展のための日・GUAM関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための目・GUAM関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための目・GUAM関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための機構)(於:国際文化会館) 1月 日中対話「『価値観外交』の可能性」(共催:ワシントン・カレッジ国際研究所)(於:国際文化会館) 3月 日中対話「『新空間』の日中信頼醸成に向けて」(共催:日本国際フォーラム)(於:国際文化会館) 5月 日中対話「変容する国際・国内情勢の下での日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所他)(於:国際文化会館) 12月 日・対話「変化する世界と日中関係の展望」(共催:中国社会科学院日本研究所)(於:日本国際フォーラム会議室) 12月 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共催:明治大学、西シドニー大学他)(於:明治大学グローバル・ホール) 2月 日・東アジア対話「我々は何をなすべきか:アジア諸国間の信頼のために」(共催:浙江大学公共管理学院他)(於:国際文化会館) 日米対話「新ガイドライン時代の日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所)(於:国際文化会館) 中央アジア・シンボジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催:外務省他)(於:東京大学) 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」(於:国際文化会館)		10月	第1回「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室)					
2013年 日・黒海地域対話「日・黒海地域協力の発展に向けて」(共催:黒海経済協力機構)(於:国際文化会館) 日・		11月	第2回「日・黒海地域関係研究会」(於:日本国際フォーラム会議室)					
2月 際文化会館		1月	日中対話「未来志向の日中関係の構築に向けて」(共催:北京師範大学環境学院他)(於:国際文化会館)					
5月 日・GUAM対話「民主主義と経済発展のための日・GUAM関係の展望」(共催:民主主義と経済発展のための機構)(於:国際文化会館)	2012年	2月						
1月 日中対話「『新空間』の日中信頼醸成に向けて」(共催:日本国際フォーラム)(於:国際文化会館)	20154	5月						
2014年 3月 日米対話「変容する国際・国内情勢の下での日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所他) (於:国際文化会館) 5月 日中対話「変化する世界と日中関係の展望」(共催:中国社会科学院日本研究所) (於:日本国際フォーラム会議室) 12月 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共催:明治大学、西シドニー大学他) (於:明治大学グローバル・ホール) 日・東アジア対話「我々は何をなすべきか:アジア諸国間の信頼のために」(共催:浙江大学公共管理学院他) (於:国際文化会館) 日米対話「新ガイドライン時代の日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所) (於:国際文化会館) 中央アジア・シンポジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催:外務省他) (於:東京大学) 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」) (於:国際文化会館) 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院) (於:日		10月						
2014年 2014年 5 月 日中対話「変化する世界と日中関係の展望」(共催:中国社会科学院日本研究所)(於:日本国際フォーラム会議室) 12月 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共催:明治大学、西シドニー大学他)(於:明治大学グローバル・ホール) 日・東アジア対話「我々は何をなすべきか:アジア諸国間の信頼のために」(共催:浙江大学公共管理学院他)(於:国際文化会館) 日米対話「新ガイドライン時代の日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所)(於:国際文化会館) 中央アジア・シンポジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催:外務省他)(於:東京大学) 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」)(於:国際文化会館) 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院)(於:日		1月	日中対話「『新空間』の日中信頼醸成に向けて」(共催:日本国際フォーラム)(於:国際文化会館)					
12月 日・アジア太平洋対話「パワー・トランジションの中のアジア太平洋:何極の時代なのか」(共催:明治大学、西シドニー大学他)(於:明治大学グローバル・ホール) 日・東アジア対話「我々は何をなすべきか:アジア諸国間の信頼のために」(共催:浙江大学公共管理学院他)(於:国際文化会館) 日米対話「新ガイドライン時代の日米同盟」(共催:米国防大学国家戦略研究所)(於:国際文化会館) 中央アジア・シンポジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催:外務省他)(於:東京大学) 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」)(於:国際文化会館) 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院)(於:日		3月						
12月 催:明治大学、西シドニー大学他)(於:明治大学グローバル・ホール)	2014年	5月						
2月 学公共管理学院他)(於:国際文化会館)		12月						
2015年 文化会館) 中央アジア・シンポジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催: 外務省他)(於:東京大学) 7月 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」)(於:国際文化会館) 9月 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院)(於:日		2月						
2015年 中央アジア・シンポジウム「未来を見据えた中央アジアの今:チャンスとチャレンジ」(共催: 外務省他)(於:東京大学) 7月 第2回日・GUAM対話「激動する世界における日・GUAM関係」(共催:「民主主義と経済発展のための機構(GUAM)」)(於:国際文化会館) 9月 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院)(於:日		3月						
7月 済発展のための機構 (GUAM)」) (於:国際文化会館) 9月 第5回日中対話「未来志向の関係構築に向けて」(共催:中国現代国際関係研究院) (於:日	2015年							
9月		7月						
		9月						

2015年	12月	日・東アジア対話「東アジア地域協力の新地平:複合リスクを如何に乗り越えるか」(共催: シンガポール国立大学東アジア研究所他)(於:ザ・プリンスパークタワー東京)				
	3月	日米対話「激動の世界と進化する日米同盟:開かれたルール基盤の国際秩序存続のために」(共催:米国防大学国家戦略研究所)(於:国際文化会館)				
	7月	日・アジア太平洋対話「21世紀の国際秩序とアジアの海」(共催:明治大学、西シドニー大学他) (於:明治大学グローバル・ホール)				
2016年	8月	日中韓対話「世界の中の日中韓関係」(共催:日中韓三国協力事務局)(於:ANA インターコンチネンタルホテル東京)				
	11月	世界との対話「ウクライナ危機後の欧州・アジア太平洋国際秩序と日本」(共催:米国大西洋協議会、ウクライナ世界政策研究所他)(於:アイビーホール)				
	12月	国際シンポジウム「仲裁裁判所判決『後』をめぐって:アジアの海の今後」(主催:明治大学国際政策研究所、明治大学国際総合研究所)(於:明治大学)				
	2月	日中対話「少子高齢化時代の日中協力」(共催:上海外国語大学日本文化経済学院、上海社 会科学院日本研究センター、復旦大学国際関係与公共事務学院他)(於:国際文化会館)				
	3月	日米対話「トランプ政権下の日米同盟:岐路か継続か」(共催:米国防大学国家戦略研究所) (於:国際文化会館)				
2017年	6月	日・ASEAN 対話「変容するアジア太平洋地域秩序と日・ASEAN 協力」(共催:シンガポール南洋理工大学ラジャラトナム国際関係研究所、ベトナム国家大学人文社会科学研究院)(於:国際文化会館)				
	8月	「中央アジア+日本」対話「日·中央アジア関係の今と未来を展望する」(共催:外務省)(於: 外務省国際会議室)				
2010年	2月	世界との対話「ユーラシア2025:ポスト・パワーシフトの地政学」(共催:仏国際関係戦略研究所)(於:ホテルオークラ東京)				
2018年	3月	日米対話「チャイナ・リスクとチャイナ・オポチュニティー『自由で開かれたインド太平洋 戦略』へのインプリケーション」(共催:米カーネギー国際平和財団)(於:国際文化会館)				

世話人名簿

【代表世話人】

伊藤憲一 日本国際フォーラム会長

【執行世話人】

渡 辺 日本国際フォーラム専務理事

【常任世話人・事務局長】

高 畑 洋 平 日本国際フォーラム主任研究員

【経済人世話人】

石川 洋 鹿島建設取締役副社長執行役員

曹 田 章一郎 トヨタ自動車名誉会長

茂 木 友三郎 キッコーマン取締役名誉会長取締役会議長 矢 口 敏 和 グローブシップ代表取締役社長

【政治家世話人】

沢 未 途 衆議院議員 (希望の党) 柿

池 百合子 小 東京都知事

元

松 義 規 衆議院議員(立憲民主党) 末

木 鏧 祐 衆議院議員(自由民主党)

衆議院議員(自由民主党)

【有識者世話人】

船 \mathbb{H}

明治大学教授 伊 藤 剛

丈 神 谷 万 防衛大学校教授

高 原 明 生 東京大学教授

メンバー名簿

【経済人メンバー】(10名)

Ш 洋 鹿島建設取締役副社長執行役員 石

今 井 敬 新日鐵住金名誉会長

曹 \mathbb{H} 章一郎 トヨタ自動車名誉会長

半 \mathbb{H} 晴 久 世界開発協力機構総裁兼ミスズ取締役社長

宮 崎 俊 彦 日本視聴覚社代表取締役

茂 木 友三郎 キッコーマン取締役名誉会長取締役会議長

敏 和 グローブシップ代表取締役社長 矢

本 忠 人 富士ゼロックス代表取締役会長 Ш

英 Ш 三菱 UFI 銀行取締役副頭取執行役員

未 定) 日本電信電話

【政治家メンバー】(10名)

串 博 志 衆議院議員(希望の党) 大

城 内 実 衆議院議員(自由民主党)

塩 崎 恭 久 衆議院議員(自由民主党)

Ш 中 正 春 衆議院議員 (無所属)

長 島 昭 久 衆議院議員(希望の党)

壯 衆議院議員(自由民主党) Ш \Box

猪 口 邦 子 参議院議員(自由民主党)

林 芳 正 参議院議員(自由民主党)

幸 藤 田 久 参議院議員(民進党)

牧 山 ひろえ 参議院議員 (民進党)

【有識者メンバー】(50名)

青 木 保 大阪大学名誉教授

明 石 康 国際文化会館理事長 秋 \mathbb{H} 浩 之 日本経済新聞社コメンテーター

浅 尾 慶-郎 前衆議院議員

夫 朝 海 和 元駐ミャンマー大使

児 天 早稲田大学教授

飯 田 敬 輔 東京大学教授

池 尾 愛 子 早稲田大学教授 伊豆見 元 東京国際大学教授

伊 藤 英 成 元衆議院議員

十 田 稲 専修大学教授

 \Box 老 猪 東京大学名誉教授

 \mathbb{H} 秀次郎 早稲田大学大学院教授 浦

宇 山 智 彦 北海道大学教授

植 \mathbb{H} 降 子 国際基督教大学教授

宅 映 子 大 評論家

夫 小此木 政 慶應義塾大学名誉教授

茂 具 樹 慶應義塾大学教授 加

河 合 正 弘 東京大学名誉教授

河 東 哲 夫 Iapan and World Trends 代表

北 潟 批 時事通信社外信部長

博 生 木 下 全国中小企業情報化促進センター参与

行 豊 雄 天 国際通貨研究所名誉顧問

倉 西 雅 子 聖学院大学非常勤講師

玉 分 良 成 防衛大学校長 榊

原 英 資 青山学院大学教授 橋 亮 佐 神奈川大学教授

政策研究大学院大学名誉教授 白 石 降

添 谷 芳 秀 慶應義塾大学教授 肇

高 島 久 東京倶楽部理事長 中 明 彦 日本国際フォーラム最高参与 田

原 総-一朗 評論家 \mathbb{H}

垣 禎 谷 前衆議院議員

鶴 尚 路 人 慶應義塾大学准教授

東 郷 和 彦 京都産業大学世界問題研究所長

中 兼 和津次 東京大学名誉教授

中 西 寬 京都大学大学院教授

西 恵 毎日新聞社客員編集委員 Ш

茂 樹 袴 \mathbb{H} 日本国際フォーラム評議員

羽 場 久美子 青山学院大学教授

陽 廣 瀬 子 慶應義塾大学教授

眞 野 輝 彦 元三菱東京 UFJ 銀行役員

 \equiv 船 恵 美 駒澤大学教授

村 \mathbb{H} 晃 嗣 同志社大学教授

森 敏 光 元駐カザフスタン大使 森 本 敏 拓殖大学総長

渡 邊 頼 純

内 昌 之 Щ 明治大学特任教授

之 湯 下 博 元駐フィリピン大使

邊 啓 貴 渡 東京外国語大学教授

慶應義塾大学教授

(五十音順)

7. 規約

(名称)

第1条 本団体は、グローバル・フォーラム(The Global Forum of Japan)という(以下「本フォーラム」 という)。

(事務局および運営原則)

第2条 本フォーラムは、事務局を公益財団法人日本国際フォーラム内に置く。ただし、本フォーラムはいかなる組織からも独立した会員制の任意団体であり、自治(self-governing)および自活(self-financing)の原則によって運営される。

(目的)

第3条 本フォーラムは、世界と日本の間に各界横断の政 策志向の知的対話を組織し、もって彼我の相互理 解および合意形成に資することを目的とする。

(事業)

第4条 本フォーラムは、前条の目的を達成するため、世界的、地域的および二国間のベースで国際的交流ないし対話のための会議、セミナー、シンポジウム等を開催し、またその成果を政策提言等の形で発表する。

(メンバー)

第5条 本フォーラムは、本フォーラムの目的に賛同する 経済人メンバー (Business Member)、政治家メン バー (Political Member)、有識者メンバー (Academic Member)によって構成する。経済人 メンバーは第15条に定める賛助会費を負担するも のとする。メンバーの入退会に関する事項は、世 話人会の意を受けて、執行世話人がこれを処理する。

(世話人等)

第6条 本フォーラムに、代表世話人 (Chairman)、執行世話人 (President)、常任世話人 (Vice-President) 各1名および世話人若干名を置く。世話人 (Governor) は、経済人、政治家、有識者の各部類別に、世話人会において若干名ずつを選任する。また、相談役 (Advisor) 若干名を置くことができる。その任期は2月1日より2年後の1月末日までの2年とする。

(世話人会および拡大世話人会)

- 第7条 世話人会 (Board of Governors) は、世話人によって構成する。世話人会は、本フォーラムの最高意思決定機関であって、この規約に定めるもののほか、本フォーラムの運営に関する重要な事項を決議し、執行する。世話人会は、経済人メンバーをオブザーバーとして招き、拡大世話人会 (Expanded Board of Governors)として開催することができる。
 - 2. 世話人会の議事については、議事録を作成し、出席世話人の中からその世話人会において選任された議事録署名人1名と執行世話人が署名、捺印しなければならない。

(代表世話人)

第8条 代表世話人は、世話人会の意を受けて、世話人の なかから選任する。代表世話人は、本フォーラム を代表し、その業務を総理する。また、世話人会 の議長を務める。

(執行世話人)

第9条 執行世話人は、世話人会の意を受けて、世話人のなかから代表世話人が任命する。執行世話人は、代表世話人の意を受けて、本フォーラムの業務を掌理する。また、代表世話人に事故あるとき、または欠けたときは、代表世話人に代わってその職務を代行する。

(常任世話人)

第10条 常任世話人は、世話人会の意を受けて、世話人のなかから執行世話人が任命する。常任世話人は、執行世話人を補佐して、日常の業務の処理に当たる。また、執行世話人に事故あるとき、または欠けたときは、執行世話人に代わってその職務を代行する。

(相談役)

第11条 相談役は、世話人会の意を受けて、代表世話人が 委嘱する。相談役は世話人会に出席し、世話人会 の諮問に答え、助言する。

(事務局長)

第12条 本フォーラムに事務局を設け、事務局長 (Executive Secretary) 1名を置く。事務局長は事務局員を統率し、日常の事務を処理する。事務局長は、執行世話人が任命する。

(補佐人および補佐人会)

第13条 世話人会の事務の補佐をするために、本フォーラムに補佐人会を置く。補佐人会は、補佐人若干名をもって構成する。補佐人は補佐人会開催の都度、経済人世話人が各1名ずつを任命する。

(会計)

第14条 本フォーラムの事業計画・事業報告および予算・ 決算に関する書類は、執行世話人がこれを作成し、 補佐人会の監査を受け、毎会計年度ごとに世話人 会に提出して、その承認を得なければならない。 本フォーラムの会計年度は、毎年1月1日に始ま り、同年12月31日に終わる。

(賛助会費等)

第15条 本フォーラムの経費は、経済人メンバーの拠出する賛助会費および各種機関・団体等の交付する助成金・補助金等によって賄う。賛助会費の額は、1口年100万円(1口以上)とする。

(規約の変更)

第16条 この規約は、世話人会出席世話人の3分の2以上の 多数により承諾を得なければ、変更することがで きない。

1996年2月7日 世話人会承認

2004年1月8日 世話人会承認

2007年2月14日 世話人会承認

2013年1月16日 世話人会承認

2014年1月15日 世話人会承認

2017年1月13日 世話人会承認

Ⅱ. 2017年度の4つの「対話」

1.	日中対話	14
2.	日米対話	16
3.	日·ASEAN 対話·······	18
4	中央アジア+日本対話	20

当フォーラムは、全世界のカウンターパートを相手に、政策志向の知的対話を毎年3~4回実施しているところ、本年度においては、次のとおり4つの「対話」が東京で開催された。

1. 日中対話

「少子高齢化時代の日中協力のあり方」(2017年2月20日開催)

現在の日中関係は、一時の首脳レベルの対話が停止した状態から比べるとはるかに関係が改善されているが、国際社会の秩序と繁栄をともに担うような責任ある関係には程遠いのが現状である。他方、国際社会、特にアジアにおいては、多くの地球規模課題が顕在化しており、日中両国の協力がますます求められるようになっている。その中でも特に重要なのが、少子高齢化社会における持続可能な発展に向けた協力である。日本では、歴史上例をみない急速なペースで少子高齢化が進展することで社会保障費が増大し、社会全体の停滞がみられつつある。一方中国でも、一人っ子政策の影響などによる高齢化の進展で労働力が落ち、2010年以降急速に経済成長率が低下し、一人当たりの所得水準が高まる前に高齢化が進む「未富先老」社会の到来が懸念されている。ただこうした中において、日中間においては、リハビリなどの医療産業分野における貿易投資が拡大しはじめるなど、新たな関係拡大に向けた動きも随所にみられはじめている。

このような認識に基づいて、グローバル・フォーラムは、上海外国語大学日本文化経済学院、上海社会科学院日本研究センター、復旦大学国際関係与公共事務学院等との共催で、2月20日東京において、日中対話「少子高齢化時代の日中協力のあり方」を開催した。当日は、以下の日中両国のパネリスト等を含む、総勢70名が参加して、2つのセッションで意見を交換し、活発な議論が進められた。

島田	晴雄	慶應義塾大学名誉教授
高原	明生	東京大学教授
関	志雄	野村資本市場研究所シニアフェロー
大泉	啓一郎	日本総合研究所上席主任研究員
佐藤	安信	東京大学教授
渡辺	剛	杏林大学准教授
石垣	泰司	東アジア共同体評議会議長
馬	利中	上海大学東アジア研究センター所長
陳	友駿	上海国際問題研究院アジア太平洋研究センター副研究員
廉	德瑰	上海外国語大学日本文化経済学院教授
包	霞琴	復旦大学国際関係与公共事務学院教授
金	永明	上海社会科学院日本研究センター教授
		(プログラム登場順)
	高関大佐渡石馬陳廉包	高財生点原方房方房方長五万下東市東長東長東日東 <t< th=""></t<>



日中双方のパネリストが並ぶ



『日中対話報告書』

議論概要

○馬利中(上海大学東アジア研究センター所長)

中国では、高齢者によって、健康、福祉、看護など多様かつ大規模な老人サービスの消費需要が増大しているが、そのニーズに対応できる高齢者市場ができていない。そのため、政府がシルバー産業の開発に乗り出しているところである。このように、少子高齢化問題は社会保障の文脈では負債であるが、シルバー新産業の文脈では資産であり、そのノウハウを日本から取り入れていく必要がある。

○関志雄(野村資本市場研究所シニアフェロー)

2011年以降、中国経済は「新常態」に入ったと宣言されているが、言い換えるともはやこれまでの高度成長期に戻ることはできないということであり、昨年の成長率は6.7%にまで低下している。なぜ、成長率が落ちているのかというと、大きな要因は労働力の不足である。中国では、2010年以降人口ボーナスが人口オーナスに変化している。さらに、労働力を供給する農村部の余剰労働力も枯渇し、ルイス転換点もほぼ同じ時期に通過しているからである。

○大泉啓一郎(日本総合研究所上席主任研究員)

日本の高齢化は、それまでの世界の中でも例外的に早いスピードで進展したが、中国はじめ東アジア諸国は、それよりも早いペースで高齢化が進むとみられている。そのため、高齢化社会における日中協力の成果は、両国のみならずアジア全体にとって有益となるだろう。具体的な協力の内容としては、日本では手厚い社会保障費を整備したために右肩上がりで同費用が膨らみ、世界一の政府債務国になってしまった。中国は社会保障を整備している過程にあるが、日中が共に今後の持続的な社会保障制度のあり方を研究していくべきであろう。

2. 日米対話「トランプ政権時代の日米同盟:岐路か継続か」 (2017年3月3日開催)

ドナルド・トランプ米大統領の誕生で幕を開けた本年は、日米同盟の今後を左右する一年になるのではないか。日米同盟はこれまで、「新ガイドライン」の合意や日本の安保関連法制の成立によって、その関係を深化させてきた。ところが、トランプ米大統領は選挙戦で、「米軍受け入れ国は駐留経費を全額払うべきだ」と主張し、在日米軍の撤退をほのめかしたほか、就任早々には、環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱やメキシコとの国境での壁建設など、選挙期間中より物議を醸していた看板公約を次々と実現に移すなど、周辺国のみならず同盟国にまで不信感が広がった。こうした中、さる2月4日、来日したジェームズ・マティス米国防長官は、安倍首相との会談で、米国の日本防衛義務を定めた日米安全保障条約第5条の適用範囲に失閣諸島が含まれると明言し、米政府の従来の方針を引き継ぐ姿勢を示した。しかしながら、北朝鮮の核開発、中国の海洋進出など、わが国を取り巻くアジア太平洋地域における安全保障環境が厳しさを増すなかで、今後の日米同盟はいかにあるべきなのか。トランプ政権が始動した今こそ、わが国は日本外交の基軸である日米同盟の次なる10年を見据えたグランド・デザインを描く必要があると言える。

このような問題意識を踏まえ、グローバル・フォーラム(GFJ)は、米国防大学国家戦略研究所(INSS)との共催で、3月3日東京において日米対話「トランプ政権時代の日米同盟:岐路か継続か」を開催した。 当日は、米国側よりジェームズ・プリスタップ INSS 上席研究員、ロバート・マニング米大西洋協議会上級研究員等に加え、日本側より神谷万丈防衛大学校教授/GFJ 有識者世話人、中西寛京都大学教授/GFJ 有識者メンバー等を含む、総勢 101 名が参加して、活発な議論が進められた。

日本	伊藤憲一	GFJ 代表世話人
御パ	神谷 万丈	防衛大学校教授
ネル	中西 寛	京都大学教授
フスト	渡部 恒雄	笹川平和財団特任研究員
日本側パネリスト (6名)	細谷 雄一	慶応義塾大学教授
名	加藤 洋一	日本再建イニシアティブ研究主幹
 米 国	ロバート・マニング	米大西洋協議会上級研究員
側パラ	ニコラス・セーチェーニ	米 CSIS 日本部副部長
米国側パネリスト (4名)	ジェームズ・プリスタップ	INSS 上席研究員
F C	ジェームズ・ショフ	カーネギー国際平和財団上級研究員
名 名		(プログラム登場順)
	III.	



日米双方のパネリストが並ぶ



『日米対話報告書』

議論概要

○ロバート・マニング米大西洋協議会上級研究員

グローバル化の進展とともに反グローバル化の動きが活性化している。1990年代、グローバル化は世界を繁栄の時代へと導き、主に中国およびインドで10億人を貧困から解放した。しかし現在グローバル化は、特に欧米でネガティブに捉えられるようになった。その結果、英国ではブレグジットが発生し、米国でもトランプ政権の誕生を招いた。いかにアジア太平洋の安定と繁栄を確保するかが、現在の日米共通の課題である。

○ジェームズ・ショフ・カーネギー国際平和財団上級研究員

「積極的日米同盟」のもたらす可能性について、アピールしたい。アジア太平洋地域の安全保障については、日米はより積極的にインドおよび豪州と協力すべきである。

○ジェームズ・プリスタップ INSS 上席研究員

日米同盟は、日米共通の利益・価値をその基盤としている。そのことを両国民はより深く認識しなければならない。近年、日本が、安倍首相のもとで、東南アジア諸国のキャパシティ・ビルディングなどをとおして国際平和・安全保障に果たす役割を拡大していること、また、憲法の再解釈や2015年の日米防衛ガイドラインの改訂など、自国の安全保障に主体的に取り組んでいることは、日米同盟の強化につながり、米国にとっても好ましいことである。

なお、本対話のもようは、ダイジェスト動画として、当フォーラムのホームページ上にて、無料配信中。 次のリンクより閲覧ありたい。(http://www.gfj.jp/j/dialogue/20170303.html#tabs-front)

3. 日・ASEAN 対話「変容するアジア太平洋地域秩序と日・ASEAN 協力」(2017年6月30日開催)

今日、アジア太平洋地域は、中国をはじめとする新興国の台頭によって変革期を迎えている。この状況に適切に対処しつつ、自由で開かれたルール基盤の国際秩序を維持・発展させていくことが、我が国にとって最も重要な外交・安全保障上の目標となっている。現在、トランプ政権下の米国はきわめて不透明な外交政策を展開しているが、そのような状況にあって、今後ともこの地域の平和と繁栄を維持していくためには、日米同盟を有効に機能させ続けるとともに、多国間のさまざまな協力をより一層拡充させ、「日米同盟プラスα」のネットワーク構築を図っていく必要がある。なかでも ASEAN の戦略的重要性はますます高まりつつあり、ASEAN を日本に、そして日米同盟にどこまで引きつけることができるかが今、改めて問われているといえる。

このような問題意識を踏まえ、グローバル・フォーラム(GFJ)は、シンガポール南洋理工大学 S. ラジャラトナム国際関係研究所(NTU)、ベトナム国家大学人文社会科学院(VNU)および公益財団法人日本国際フォーラムとの共催、国際交流基金アジアセンターの助成により、6月30日東京において日・ASEAN対話「変容するアジア太平洋地域秩序と日・ASEAN協力」を開催した。当日は、ASEAN側よりタン・シー・セン NTU教授、ブイ・タン・ナム VNU 准教授等に加え、日本側より神谷万丈防衛大学校教授/GFJ 有識者出話人、中西寛京都大学教授/GFJ 有識者メンバー等を含む、総勢 69 名が参加して、活発な議論が進められた。

	伊藤 憲一	GFJ 代表世話人
日 本	神谷 万丈	防衛大学校教授
側	中西	京都大学教授
パネ	加藤 洋一	日本再建イニシアティブ研究主幹
日本側パネリスト	細谷 雄一	慶応義塾大学教授
卜	橋本 宏	元駐シンガポール大使
$\widehat{\mathfrak{g}}$	大庭 三枝	東京理科大学教授
9 名	佐橋 亮	神奈川大学准教授
	佐藤 考一	桜美林大学教授
米	タン・シー・セン	NTU 教授(シンガポール)
画側	アリエス・アルゲイ	フィリピン大学准教授(フィリピン)
パネ	トーマス・ベンジャミン・ダニエル	マレーシア戦略国際問題研究所研究員(マレーシア)
米国側パネリスト	ブイ・タン・ナム	VNU 准教授(ベトナム)
ト	アイース・ジンダルサ	インドネシア戦略国際問題研究所研究員(インドネシア)
$\widehat{\epsilon}$	カヴィ・チョンキッタヴォーン	タイ安全保障国際問題研究所シニア・フェロー (タイ)
(6 名)		(プログラム登場順)



日・ASEAN 対話のもよう



『日・ASEAN 対話報告書』

議論概要

○タン・シー・セン NTU 教授

世界が反グローバリゼーションや保護主義に向かいつつあるが、保護主義が完全に勝利したわけではない。東アジアには TPP(環太平洋パートナーシップ協定)や RCEP(東アジア地域包括的経済連携)などの枠組みがあるが、これらがポピュリズムや保護主義に対抗する代替案になっている。

○中西寛京都大学教授

昨年6月からアジア太平洋地域を巡る戦略環境は急速に変化してきている。フィリピンではドゥテルテ大統領の選出により、従来の日米協力を重視する外交政策からの脱却が見られる。今後、日本はTPP11と RCEP を共に推進し、自由貿易強化の姿勢を示すとともに、南シナ海の周辺諸国と協力し、海洋ガバナンスの強化にも努める必要がある。

○トーマス・ベンジャミン・ダニエル・マレーシア ISIS 研究員

アジア太平洋地域の途上国のプライオリティは経済発展と繁栄にあり、中国はそこを突いてきている。小 国が具体的な内容がなくても中国の「一帯一路」を支持するのはそのあたりに理由があるのではないか。

○細谷雄一慶応義塾大学教授

これまでの日本は、法の支配、軍縮・核不拡散などを軸にして同地域へのコミットメントを展開して きたが、今後の日本は、自国に欠けている防衛能力の強化などが求められるのではないか。

○大庭三枝東京理科大学教授

日本と ASEAN には地域情勢を巡って認識のギャップがある。すなわち、日本の対 ASEAN 政策の強化には、中国への牽制の意味合いが強く、ASEAN そのものを見ていない。今こそ、日・ASEAN 双方にとって望ましい地域ビジョンの見直しが急務である。

○アイース・ジンダルサ・インドネシア CSIS 研究員

米国はオバマ政権下でリバランス戦略を維持すべく TPP を推進してきたが、トランプ政権下では同政策を踏襲せず、米国はアジア太平洋地域におけるコミットメントを低下させている。他方、これはアジアの安定にとってリスクだとしても、日・ASEAN 協力の強化にとってはオポチュニティになる側面もある。

○カヴィ・チョンキッタヴォーン・タイ安全保障国際問題研究所上級研究員

日・ASEAN協力において重要な点は、日・ASEAN 双方の政策立案者におけるマインドセットの変革、日・ASEAN間のハイレベル協議の実施、サイバー・セキュリティー等における技術協力や、対テロ政策の協力、若者同士の関係強化の4点である。

なお、本対話のもようは、ダイジェスト動画として、当フォーラムのホームページ上にて、無料配信中。 次のリンクより閲覧ありたい。(http://www.gfj.jp/j/dialogue/20170630.html#tabs-front)

4. 中央アジア+日本対話「日・中央アジア関係の今と未来を展望 する」(2017年8月31日開催)

中央アジアは、古来シルクロードに通じた交流があり、これら5か国は大変日本に友好的で、豊富な天然 資源と若年人口を有する将来性のある地域であるが、日本国内ではその重要性が十分に認識されていない。 また、同地域はアジア、欧州、ロシア、中東を結ぶ地政学上の要衝に位置しており、国際情勢が急激に変容 するなかで、同地域の地政学的重要性を改めて問い直し、日本の役割を模索することは、日本の外交戦略上 極めて重要である。

このような問題意識を踏まえ、グローバル・フォーラムは、外務省との共催で、8月31日東京において、中央アジア+日本対話「日・中央アジア関係の今と未来を展望する」を開催した。当日は、中央アジア5カ国および米国からそれぞれ1名ずつ、合計6名の専門家が来日したほか、日本からは当フォーラムの伊藤憲一代表世話人、宇山智彦有識者メンバー(北海道大学教授)の他、川口順子元外務大臣等171名の出席者が参加し、議論した。

なお、対話当日は、本年が日本と中央アジア各国との外交関係樹立25周年ということで、日本と中央アジア各国との関係の25年の軌跡を振り返りつつ、日・中央アジア関係の未来の展望について活発な意見交換が行われた。

	田口精一郎	外務省中央アジア・コーカサス室長
Ė	伊藤 憲一	GFJ 代表世話人
本 側	堀井 学	外務大臣政務官
パネ	川口 順子	元外務大臣
本側パネリスト	宇山 智彦	北海道大学教授
ĥ	宮家 邦彦	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
9 名	古宮健一郎	澤田ホールディングス取締役
2	本間 勝	欧州復興開発銀行東京駐在員事務所長
	相木 俊宏	外務省欧州局審議官
海	フレデリック・スター	米外交政策評議会中央アジア・コーカサス研究所所長
海外側パネリスト	グロムジョン・ボボゾーダ	タジキスタン大統領府国際局長
パネ	サヤサット・ヌルベック	カザフスタン・アスタナ国際金融センター長
IJ	アザマト・ディカムバエフ	キルギス国立戦略調査研究所所長
ì	グルバンムハメット・カシモフ	トルクメニスタン外務省特任大使
6 名	ムザファール・マドラヒーモフ	ウズベキスタン外務省アジア太平洋局日本課長
名		(プログラム登場順)



中央アジア+日本対話のもよう



『中央アジア+日本対話報告書』

議論概要

○グロムジョン・ボボゾーダ・タジキスタン大統領府国際局長

日本からタジキスタンへの支援は、専ら技術協力に重点が置かれ、両国のポテンシャルを十分に生かし切れていない。現在、タジキスタンはアフガニスタンの安定のために、自国の電力をアフガニスタンに送る「CASA-1000」を準備しているが、改めて日本の協力を仰ぎたい。

○サヤサット・ヌルベック・カザフスタン・アスタナ国際金融センター・マネージングディレクター

キルギスでは、50以上の日本資本の企業があらゆる分野(エネルギー、鉱山採掘業、原子力分野など)で業務を展開している。1993年12月から「カザフスタン日本経済官民合同協議会」が開催され、2005年から2015年の10年間で、日本からの直接投資額は累計で62億ドルに達した。

○アザマト・ディカムバエフ・キルギス国立戦略調査研究所所長

25年前、キルギスタンは独立国家となり、その国名を「キルギス」に変更した。新生キルギスと最初に外交関係を樹立したのが日本である。日本はこれまで ODA によるインフラ整備などを通じて、キルギスに対する最大の支援国であった。ロシアの「ユーラシア経済連合」および中国の「一帯一路」が進展する中、日本に期待する役割は極めて大きい。

○グルバンムハメット・カシモフ・トルクメニスタン外務省特任大使

現在、トルクメニスタンでは、川崎重工や東洋エンジニアリングなどの日系企業が、総額50億ドルを超える規模の天然ガス開発プロジェクトを進めており、GTL(Gas to Liquids)プラントや大型ガス化学コンプレックスの建設を通じて、トルクメニスタンのエネルギー供給の安定化に貢献している。

○ムザファール・マドラヒーモフ・ウズベキスタン外務省アジア太平洋局日本課長

ウズベキスタンにとって、この対話に参加することは、意味深い。日本の高度な知識を習得できる重要な場であるだけでなく、今後の両国関係をさらに発展させる機会にもなっている。この対話を通じて、日本企業との協力分野(エネルギー、石油、ガス、ケミカル、薬など)の一層の拡大を目指したい。

なお、本対話のもようは、ダイジェスト動画として、当フォーラムのホームページ上にて、無料配信中。 次のリンクより閲覧ありたい。(http://www.gfj.jp/j/dialogue/20170831.html#tabs-front)

Ⅲ. 2017年度のその他の活動

1.	国際政経懇話会	24
2.	外交円卓懇談会	26
3.	「補佐人会」「世話人会・拡大世話人会」	28
4.	e- 論壇「議論百出」の運営等 ·······	29
5.	『グローバル・フォーラム会報』の発行	37
6.	ホームページの運営(日本語・英語)	41
7.	メールマガジンの発行(日本語・英語)	43
8.	出版刊行 ·····	44

1. 国際政経懇話会

毎月1回定例的に、国際情勢の機微に精通した専門家あるいは権威者を講師に招いて開催しているイン フォーマルかつコンフィデンシャルな懇話会である。なお、本懇話会は、日本国際フォーラムおよび東アジ ア共同体評議会との共催により実施しており、その議論の概要は、『会報』紙上あるいはホームページ上で、 一般市民にも広く公開されている。2017年度においては、つぎのとおり9回の「国際政経懇話会」が開催さ れた。

(1) 第290回会合(2017年2月16日)

講 師: 河井 克行 内閣総理大臣補佐官・衆議院議員

テーマ: 「トランプ新政権と日米同盟」

これまでの訪米で感じたことは、トランプ大統領が安倍総理を強く求めている 概 要: ということである。今や国際社会全体が安倍総理を強く求めるようになってお

> り、こうした状況は、我々日本人がこれまで経験したことのないものである。 米国の大統領から言われたことに日本の総理大臣が反応するだけの時代はもは や終焉を迎えた。今後は、自国とインド太平洋地域の平和と繁栄を守るために、

日本の役割がこれまで以上に拡大するだろう。

(2) 第291回会合(2017年3月9日)

講 師: 増島 稔 外務省国際協力局審議官

テーマ: 「最近の日本外交における国際協力について」

概 要: 途上国では、アジアを中心にインフラ需要が旺盛だが、我が国は、2020年まで

に ADB と協力して、1,100億ドルのインフラ投資を提供する予定である。また、 G7伊勢志摩サミットでも「質の高いインフラ投資の推進」を含む「G7伊勢

志摩原則 | をとりまとめた。

(3) 第292回会合(2017年4月21日)

渡邊 啓貴 東京外国語大学大学院教授 講師:

テーマ: 「フランス大統領選挙:混迷の欧州政治」

今回の選挙戦では、ルペン候補の急浮上が注目を集めているが、本命は依然マ

クロン候補だ。マクロン氏は、オランド政権での経済相の経験を活かし、財界

に強力なパイプを築き、「前進!」という新たな一大勢力を構築した。

(4) 第293回会合(2017年5月25日)

講 師: 春名 幹男 ジャーナリスト

テーマ: 「トランプ政権と日本」

概要:

トランプ政権の首脳人事は依然錯綜しており、外交分野でもバノン首席戦略官 とマクマスター国家安全保障問題担当補佐官の対立が米国の外交力を低下させ

ている。他方、安倍政権はトランプ政権に巧みに接近しており、例えば2月の 首脳会談では、共同声明は日本側作成の原案をトランプ大統領が了解する形で

発表された。



(5) 第294回会合(2017年6月12日)



講 師: 上村 司 外務省中東アフリカ局長

テーマ: 「最近の中東情勢について」

概要: 混迷する中東情勢にあって、サウジアラビアとイランの対立が注目される。ス

ンニ対シーア、アラブ対ペルシャなどの伝統的対立軸が再活性化した面もあるが、オバマ政権下の米国が中東から撤退した中で、地域プレーヤーが夫々の思惑で動くようになった面もある。ただし、トランプ政権下の米国がこの地域に

戻ってくる気配も見られる。

(6) 第295回会合(2017年7月24日)



講師: 浦田秀次郎 早稲田大学大学院教授

テーマ: 「東アジアにおける地域経済統合の現状と課題」

概 要: 最近の東アジア地域における注目すべき動きとしては、米国による二国間交渉

優先政策、中国による「一帯一路」構想の推進、そして米国を除いたいわゆる「TPP11」の推進などが挙げられる。このような動向の中で、わが国は TPP11 の発効、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)の実現などを目指しているが、

そのためにはまず国内においては農業部門の構造改革が必要である。

(7) 第296回会合(2017年9月27日)



講 師: 名和 利男 サイバーディフェンス研究所専務理事・上級分析官

テーマ: 「日本のサイバー・セキュリティーの最前線」

概要: 近年、サイバー攻撃の技術は急速に高度化しており、10~15年前の情報セキュ

リティーの知見は役に立たなくなってきている。いずれにせよ、サイバー・セキュリティーにおいて何より大切なのは孫子の「兵法」の一つ「彼を知り己れを知れば、百戦して殆うからず」との精神に基づく「前もっての身構え」の姿

勢である。

(8) 第297回会合(2017年10月5日)



講 師: 川島 真 東京大学教授

テーマ: 「習近平体制下の対外政策と日中関係」

概要: 現在、中国は世界第二位の経済大国であると同時に、発展途上国でもあるとい

う自国の国情を踏まえ、世界秩序に対して修正主義的な立場をとっている。だが、中国は現在、東ユーラシアの空間では国際公共財を提供して自らの秩序形成を目指している。その中で、日本は、中国の経済力で圧倒することも叶わず、また日米同盟の存在があるゆえに軍事面でも厄介な存在と認識している。

(9) 第298回会合(2017年12月19日)



講 師: 山野内勘二 外務省経済局長

テーマ: 「日米経済関係と我が国の FTA 戦略 |

概 要: 日米関係については、2017年2月10日に、安倍首相とトランプ大統領がワシン

トン DC で最初の首脳会談を行い、日米共同声明を発表した。この共同声明では、経済に関し、「日本および米国は、両国間の貿易・投資関係双方の深化と、アジア太平洋地域における貿易、経済成長および高い基準の促進に向けた両国の継続的努力の重要性を再確認した。これには、日米間で二国間の枠組みに関して議論を行うこと、また、日本が既存のイニシアティブを基礎として地域レ

ベルの進展を引き続き推進することを含む」旨、発表した。

2. 外交円卓懇談会

政治、経済、文化等の各方面で世界的に活躍する専門家(海外で活躍する日本人を含む)の来日(あるいは帰国)の機会をとらえて、当フォーラム関係者と意見交換する懇談会である。なお、本懇話会は日本国際フォーラムおよび東アジア共同体評議会との共催により実施しており、その議論の概要は、「メモ」にとりまとめ、『会報』紙上あるいはホームページ上で、一般市民にも広く公開されている。なお、2017年度においては、つぎのとおり10回の「外交円卓懇談会」が開催された。

(1) 第130回会合(2017年1月30日)

講 師: ラインハルト・ドリフテ ニューカッスル大学名誉教授

テーマ: 「欧州からみた日中関係」

概 要: 欧州の視点から日中関係を概観すると、特に領土をめぐる争いに関しては、侵略的な

中国とそれに対峙する日本という構造にみえる。日中間の尖閣諸島をめぐる対立については、ピレネー条約によってフランスとスペインが「共有領土」として管理しているフェザント島の事例が参考になるだろう。尖閣諸島を日中の「共有領土」とすることで、政治、経済的利害が錯綜する両国の問題を解決に導くことができるだろう。

(2) 第131会合(2017年2月22日)



講師: 金永明 上海社会科学院中国海洋戦略研究センター主任

テーマ: 「中国からみた東アジアの海洋問題」

概 要: 中国人の海洋意識はいまだ低く、それを高めるためには、次の三つの観念を普及させ

る必要がある。第一は、周辺諸国との間で平和裡に二国間協定を結び、それに基づいて海洋政策を策定するという平和性。第二は、すべての関係国が合意から何らかの利益を得られるようにするという協調性。第三は、海洋政策を、中国一国だけでなく、すべての関係諸国の利害関係も考慮した持続可能なものにするという長期性である。

(3) 第132回会合(2017年3月10日)



講師: ジョバンニ・ガネリ 国際通貨基金アジア太平洋地域事務所次長

テーマ: 「アベノミクス:成果と展望」

概 要: 日本は、アベノミクスの成功により20年近く続いたデフレから脱却しつつあり、経済

にとどまらず社会全体が良い方向に進んでいる。世界は日本の成果から学ばねばなら

ない。

(4) 第133回会合(2017年4月6日)



講師: ディビット・ゴールドフィッシャー 米国デンバー大学教授

テーマ: 「トランプ政権の外交政策と国際秩序」

概 要: 今回の米大統領選挙は「国際協調主義 vs 米国第一主義」の様相を呈した。ヒラリー・

クリントン氏が人権などリベラルな価値を米国が主体的に発信していくことを訴えたのに対し、トランプ氏は米国の社会・政治・経済的影響力及び国民の利益に寄与する国内政治の推進を訴えた。米国の中所得階級は、国内の生産力を高めて国民の生活水

準を上げることを主眼としているトランプ氏の発言に、一種の希望を見出した。

(5) 第134回会合(2017年5月19日)



講師: ビラハリ・カウシカン シンガポール外務省無任所大使

テーマ: 「トランプとアジア:混迷する世界秩序におけるアジアの安定に向けて」

概要: 現在、アジアの地域秩序を不安定にしている主要な問題は、北朝鮮による核・ミサイル開発である。今後、北朝鮮問題の解決には、石炭の輸出をはじめ、中国による圧力

の強化が必要であり、それを中国がどこまで取り組めるかが重要である。トランプ大 統領による外交政策は予測不可能なところがあるため、日本は米国に過度に依存しな

い独自の外交を行うべきであろう。

(6) 第135回会合(2017年6月21日)



講師: 高永喆 元韓国国防省北朝鮮分析官 テーマ: 「朝鮮半島情勢の現状をどうみるか」

概 要: これまで北朝鮮の「瀬戸際外交」に対し、米国は「戦略的忍耐」をもって応じてきた

が、結果的に、対話と緊張の往復に終始するだけで、事態の打開には至らなかった。 その反省から、今後トランプ政権が、北朝鮮に対し強硬策に打って出る可能性は少な

くない。

(7) 第136回会合(2017年7月10日)



講 師: 秦亜青 中国外交学院院長 / 栄鷹 中国国際問題研究院副院長

テーマ: 「朝鮮半島の未来と北東アジアの安全保障」

概 要: 朝鮮半島をめぐる情勢は、1953年の休戦協定締結以降、南北どちらが朝鮮半島統治の

正統性をもっているかを巡る政治的対立の色彩を強めた。さらに冷戦後には、北朝鮮が核保有国を目指し始めた結果、脅威はグローバルなレベルのものとなり、米日韓3カ国は協力して一貫した対応を維持することができるかどうかを問われている。

(8) 第137回会合(2017年9月21日)



講 師: トーマス・マンケン 米国戦略予算評価研究所理事長

テーマ: 「米国の防衛戦略」

概 要: オバマ政権は、国防予算を削減し、冷戦以降維持し続けてきた二正面戦略体制を放棄

し、米国に対する脅威を増大させてしまった。そのためトランプ政権においては、まずは国防予算を増大させ、かつ同盟国の軍隊との相互運用性を強化し、米軍の兵器を温存すべきである。そしてなによりも、1990年代初頭に整備されて以降、長らく抑制されてきたために運用が困難になっている核戦力を、再び近代化させることが必要で

ある。

(9) 第138回会合(2017年11月6日)



講師: ユアン・ミルチャ・パシュク 欧州議会副議長

テーマ: 「パワー・トランジション時代の EU」

概要: 現在、EU は多くの課題を抱えている。根源的な課題としては、EU としての統一し

た利益を形成できていないということである。EU は、全体として民主主義、自由、人権といった共通の価値を有しているものの、加盟国によって異なる利益と脅威が存在している。例えば脅威ということでは、ロシアに隣接する国家とベルギーやオランダのような国家はでは全くことなる安全保障環境にあり、EU として統一した脅威認

識のもとで対応することを困難にしている。

(10) 第139回会合(2017年11月30日)



講師: ナジーブ・エルカシュ リサーラ・メディア代表

テーマ: 「中東情勢をどうみるか」

概要: 国際社会は、シリア問題をはじめとする現在の中東情勢の混迷について、その本質を、

ISIS の台頭などを念頭に、宗教的な問題として捉える傾向にあるが、実際には極めて政治的な問題である。シリア問題の核心は、ひとえにアサド独裁政権の非人道性にある。実のところ、シリアで殺害された人間の総計のうち、ISIS に殺害された者の比率は 1.6%であるのに対し、同政権に殺害された者の比率は92.2%に達する。また、

アサド政権による虐殺から逃れようとする市民の難民化も深刻な問題である。

3. 「補佐人会 | 「世話人会・拡大世話人会 |

(1)「補佐人会」の開催

本年度においては、世話人会に先立ち、つぎのとおり補佐人会が開催された。

第23回補佐人会

日時:2017年1月6日開催

場所:日本国際フォーラム「会議室」 議題:第1号議案「議題案」の承認

第2号議案「規約改正案」の承認

第3号議案「世話人・メンバー名簿案」の承認

第4号議案「平成28年度活動報告案」の承認

第5号議案「平成28年度収支決算案」の承認

第6号議案「平成29年度活動計画案」の承認

第7号議案「平成29年度収支予算案」の承認

第8号議案 議事録署名人の選任

(2)「世話人会」「拡大世話人会」の開催

本年度においては、つぎのとおり世話人会、拡大世話人会が開催された。

(i) 第27回世話人会·第13回拡大世話人会

日時:2017年1月13日

場所:ホテルオークラ東京「メイフェア」

議題:第1号議案「議題案」の承認

第2号議案「規約改正案」の承認

第3号議案「世話人・メンバー名簿案」の承認

第4号議案「平成28年度活動報告案」の承認

第5号議案「平成28年度収支決算案」の承認

第6号議案「平成29年度活動計画案」の承認

第7号議案「平成29年度収支予算案」の承認

第8号議案 議事録署名人の選任

(ii) 第28回世話人会(みなし決議)

日時:2017年6月30日

議題:第1号議案 橋本宏氏を執行世話人に選任する件

第2号議案 石川洋氏を経済人世話人に選任する件

(iii) 第29回世話人会(みなし決議)

日時:2017年12月5日

議題:「世話人等名簿案」の承認に関する件

4. e- 論壇「議論百出」の運営等

e - 論壇「議論百出」(写真下) は、2006年4月12日に当フォーラム日本語版ホームページ(http://www.gfj.jp/j/)上に開設され、当フォーラム関係者だけでなく、広く一般市民に開放された外交・国際問題に関する双方向の公開討論の場として、姉妹団体関係にある日本国際フォーラム(JFIR)の「百花斉放」、東アジア共同体評議会(CEAC)の「百家争鳴」とも連携し、相互啓発とより高い次元への議論の発展をめざして、運営されている。



一般市民からの投稿を中心に、ほぼ連日の投稿があり、編集部で内容を審査のうえ、掲載に値する価値のある投稿だけを精選して、掲載している。2017年度は248通の投稿が掲載された(28~34頁)。これらは、e-論壇創設以来の10年間にわたる実績の積み上げの中で達成された貴重な実績であり、投稿者が本名を名乗っていることとも相まって、投稿の質の高さは他の掲示板とは異質のものである。

他方、一般読者からのアクセスは、JFIR、CEAC と合わせ、毎日約3万人を超えており、3団体合計で、年間では公称1,000万人を超えている(ただし、リピーターを含む)。本eー論壇は、双方向のコミュニケーションチャンネルとして、いまや当フォーラムの諸事業のなかで中核的位置を占めている。

e - 論壇「議論百出」における公開討論活動を拠点として、その内容を発展させた各種活動として、つぎのようなものがある。

- (1) e 論壇「議論百出」に掲載されたすべての投稿記事は、ホームページへの一般読者のアクセスを 受動的に待つだけでなく、隔月刊行される「メルマガ・グローバル・フォーラム」に載せて、全国 約1万人のメルマガ登録者に配信されている。
- (2) e 論壇「議論百出」に掲載された投稿記事のうち、海外読者への配信を適切と考えられる内容の 記事については、これを全文英訳のうえ、当フォーラム英語版ホームページ上の「GFJ Commentary」欄に掲載欄において紹介されている。本年度においては、合計6本の「GFJ Commentary」が掲載された。「GFJ Commentary」に掲載された投稿は、隔月刊の当フォーラム英 語メルマガ『GFJ E-Letter』に転載して、その全文を全世界の送付先(登録者約1万人)に送付し ている。
- (3) e 論壇「議論百出」に掲載された投稿記事のうち、編集部においてとくに価値が高いと判断した 記事は、別に当フォーラムの活字メディアの季刊紙『グローバル・フォーラム会報』(発行部数3,000 部)の「議論百出から」欄に転載して、紹介している。

この一年間(2017年1月1日~2017年12月31日)に掲載された投稿は248通にのぼるが、投稿者、肩書、投稿タイトルのみ以下のとおり。

No.	掲載日	投稿者	肩書	投稿タイトル
1	1月1日	伊藤 憲一	グローバル・フォーラム 代表世話人	新年明けましておめでとうございます
2	1月5日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 国際刑事裁判所の脱退の動きと世界秩序 の変化の可能性について
3	1月6日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 国際刑事裁判所の脱退の動きと世界秩序 の変化の可能性について
4	1月10日	倉西 雅子	政治学者	社会的ダーウィニズムの誤り
5	1月12日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) サービス産業の生産性とおもてなし文化
6	1月12日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 自動車業界の動きと円安に関する韓国勢 の懸念について
7	1月13日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) サービス産業の生産性とおもてなし文化

8 1月18日					
10	8	1月13日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 自動車業界の動きと円安に関する韓国勢の懸念について
11 1月19日	9	1月18日	倉西 雅子	政治学者	文明と野蛮
20	10	1月18日	加藤 成一	元弁護士	翁長知事に普天間返還優先の大局的判断を望む
21	11	1月19日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	耳に障る言葉
22	20	1月19日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 期待と不安が入り混じるインド・ビジネス
23	21	1月20日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 期待と不安が入り混じるインド・ビジネス
24	22	1月23日	倉西 雅子	政治学者	トランプ大統領就任演説蛮
25	23	1月24日	真田 幸光	大学教員	IT 化と世界について
26	24	1月25日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 二つの"アメリカ・ファースト"
27	25	1月26日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 二つの"アメリカ・ファースト"
28	26	1月27日	田村 秀男	ジャーナリスト	韓国の部門別純金融資産のGDP比
29	27	1月29日	池尾 愛子	早稲田大学教授	(連載1) 貿易による利益と損失
30 2月1日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 最近のフランス内政 31 2月2日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は硬軟両様で"トランブ調教"に臨め 32 2月3日 倉西 雅子 政治学者 イスラム教徒や中国の人口パワーは怖くないのか? 33 2月6日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 中国本土経済について 34 2月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 中国本土経済について 35 2月8日 倉西 雅子 政治学者 韓国政府の入1活用の期待と不安 36 2月9日 田村 秀男 ジャーナリスト 築稲財政日本はトランブの矛先になる ペーゲルの「アジアに見られてきた専制体制」に ジャーナリスト (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる 32 2月13日 尾形 宜夫 ジャーナリスト (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる 32 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる で載2) 1 署近平国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門近平国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門近平国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門近平国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門立下国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門立下国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門立下国家主席・総書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 門立の展開を書記が率いるかつて の 版れる獅子 中国の展開 (連載2) 下ランブ大統領と世界について 2月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) トランブ大統領と世界について (連載2) トランブ大統領と世界について (連載2) トランブ大統領と世界について (連載2) 下移民反対 = ペイト」の誤ったイメージ 操作 (連載2) 「移民反対 = ペイト」の誤ったイメージ 操作 (連載2) 「移民反対 = ペイト」の誤ったイメージ 操作 (連載2) 「移民反対 = ペイト」の誤ったイメージ 操作 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について (連載2) 英米関係と米国の民主主義について (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 2月26日 2月27日 2	28	1月30日	池尾 愛子	早稲田大学教授	(連載2) 貿易による利益と損失
31 2月2日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は硬帳両様で"トランプ調教"に臨め 32 2月3日 倉西 雅子 政治学者	29	1月31日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 最近のフランス内政
32 2月3日 倉西 雅子 政治学者	30	2月1日		衆議院議員(民進党)	
33 2月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1)中国本土経済について 34 2月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2)中国本土経済について 35 2月8日 倉西 雅子 政治学者 韓国政府のAI活用の期待と不安 36 2月9日 田村 秀男 ジャーナリスト 緊縮財政日本はトランプの矛先になる 37 2月10日 真田 幸光 大学教員 ウェルの「アジアに見られてきた専制体制」に学ぶ現代アジア 38 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載1)日米首脳会談の後に何がくる 39 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載2)日米首脳会談の後に何がくる 40 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? 41 2月17日 真田 幸光 大学教員 (連載1)習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2)習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1)トランプ大統領と世界について 45 2月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)所移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載2)東米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2)東米関係と米国の民主主義について 53 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に養成・女性の受難問題 54 3月10日 自西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に養成・女性の受難問題 <t< td=""><td>31</td><td>2月2日</td><td>杉浦 正章</td><td>政治評論家</td><td>安倍は硬軟両様で"トランプ調教"に臨め</td></t<>	31	2月2日	杉浦 正章	政治評論家	安倍は硬軟両様で"トランプ調教"に臨め
34 2月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2)中国本土経済について 35 2月8日 倉西 雅子 政治学者 韓国政府のAI活用の期待と不安 36 2月9日 田村 秀男 ジャーナリスト 緊縮財政日本はトランプの矛先になる 37 2月10日 真田 幸光 大学教員 学ぶ現代アジア 38 2月12日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載1)日米首脳会談の後に何がくる 39 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載2)日米首脳会談の後に何がくる 40 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? 41 2月17日 真田 幸光 大学教員 (連載1)習近平国家主席・総書記が率いるかつての「服れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2)習近平国家主席・総書記が率いるかつての「服れる獅子』中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1)トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載1)トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)近界者作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成・女性の受難問題 54 3月10日 自西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成・女性の受難問題 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成・女性の受難問題	32	2月3日	倉西 雅子	政治学者	イスラム教徒や中国の人口パワーは怖くないのか?
35 2月8日 倉西 雅子 政治学者 韓国政府のAI活用の期待と不安 36 2月9日 田村 秀男 ジャーナリスト 緊縮財政日本はトランプの矛先になる ペーゲルの「アジアに見られてきた専制体制」に 学ぶ現代アジア 38 2月12日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載1)日米首脳会談の後に何がくる 39 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載2)日米首脳会談の後に何がくる 40 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? (連載1) 国近平国家主席・総書記が率いるかつて の「眠れる獅子」中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 四近平国家主席・総書記が率いるかつて の「眠れる獅子」中国の展開 (連載2) 四近平国家主席・総書記が率いるかつて の「眠れる獅子」中国の展開 (連載2) 四近の展開 10 10 10 10 10 10 10 1	33	2月6日		大学教員	
36 2月9日 田村 秀男 ジャーナリスト 緊縮財政日本はトランプの矛先になる ペーゲルの「アジアに見られてきた専制体制」に 学ぶ現代アジア (連載1) 日米首脳会談の後に何がくる 39 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載1) 日米首脳会談の後に何がくる (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつて (連載2) 目の展開 (連載2) 日の展開 (連載2) 日の展開 (連載2) 日の展開 (連載2) 日の展開 (連載2) 日の展開 (連載1) トランプ大統領と世界について (42 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について (45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について (2月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) トランプ大統領と世界について (2月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 孤児著作物 (連載1) 孤児著作物 (連載1) [移民反対 = ヘイト」の誤ったイメージ操作 (連載1) 「移民反対 = ヘイト」の誤ったイメージ操作 (連載1) 「移民反対 = ヘイト」の誤ったイメージ操作 (連載2) 「移民反対 = ヘイト」の誤ったイメージ操作 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主義に対力 (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・関係と米国の民主主義について (連載2) 英・オース・バブル (連載2) 本・オース・オース・バブル (連載2) 本・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース	34	2月7日	真田 幸光		
37 2月10日 真田 幸光 大学教員					
2月12日 尾形 宜夫 ジャーナリスト	36	2月9日	田村 秀男	ジャーナリスト	
39 2月13日 尾形 宣夫 ジャーナリスト (連載2) 日米首脳会談の後に何がくる 40 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? 41 2月17日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての「眠れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての「眠れる獅子」中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1) トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成? 女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	37	2月10日	真田 幸光	大学教員	へーゲルの「アジアに見られてきた専制体制」に 学ぶ現代アジア
40 2月15日 倉西 雅子 政治学者 アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか? 41 2月17日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1) トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 真西 華光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 白香西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	38	2月12日	尾形 宣夫	ジャーナリスト	(連載1) 日米首脳会談の後に何がくる
41 2月17日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1) トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	39	2月13日	尾形 宣夫	ジャーナリスト	(連載2) 日米首脳会談の後に何がくる
41 2月17日 共田 学儿 人子教員 の『眠れる獅子』中国の展開 42 2月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開 43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1) トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "プラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	40	2月15日	倉西 雅子	政治学者	アメリカは何を犠牲にし中国は何を譲ったのか?
43 2月22日 倉西 雅子 政治学者 情報の真偽を確認しない罪深き CNN 44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1)トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2)トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "プラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	41	2月17日	真田 幸光	大学教員	
44 2月23日 真田 幸光 大学教員 (連載1)トランプ大統領と世界について 45 2月24日 真田 幸光 大学教員 (連載2)トランプ大統領と世界について 46 2月24日 倉西 雅子 政治学者 "ブラットフォーム"を外資に席巻される日本国 47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1)英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2)英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	42	2月18日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 習近平国家主席・総書記が率いるかつての『眠れる獅子』中国の展開
452月24日 真田 幸光 大学教員(連載2)トランプ大統領と世界について462月24日 倉西 雅子 政治学者"プラットフォーム"を外資に席巻される日本国472月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)(連載1)孤児著作物482月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)(連載2)孤児著作物493月3日 倉西 雅子 政治学者(連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作503月4日 倉西 雅子 政治学者(連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作513月6日 真田 幸光 大学教員(連載1)英米関係と米国の民主主義について523月7日 真田 幸光 大学教員(連載2)英米関係と米国の民主主義について533月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)児童養護施設退所後について543月10日 田村 秀男 ジャーナリスト膨張続ける中国マネー・バブル553月10日 倉西 雅子 政治学者フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題563月13日 真田 幸光 大学教員(連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	43	2月22日	倉西 雅子	政治学者	情報の真偽を確認しない罪深き CNN
462月24日 倉西 雅子 政治学者"プラットフォーム"を外資に席巻される日本国472月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)(連載1)孤児著作物482月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)(連載2)孤児著作物493月3日 倉西 雅子 政治学者(連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作503月4日 倉西 雅子 政治学者(連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作513月6日 真田 幸光 大学教員(連載1)英米関係と米国の民主主義について523月7日 真田 幸光 大学教員(連載2)英米関係と米国の民主主義について533月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)児童養護施設退所後について543月10日 田村 秀男 ジャーナリスト膨張続ける中国マネー・バブル553月10日 倉西 雅子 政治学者フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題563月13日 真田 幸光 大学教員(連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	44	2月23日	真田 幸光	大学教員	(連載1) トランプ大統領と世界について
47 2月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 孤児著作物 48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	45	2月24日	真田 幸光	大学教員	(連載2) トランプ大統領と世界について
48 2月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 孤児著作物 49 3月3日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 50 3月4日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	46	2月24日	倉西 雅子	政治学者	"プラットフォーム"を外資に席巻される日本国
493月3日 倉西 雅子 政治学者(連載1)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作503月4日 倉西 雅子 政治学者(連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作513月6日 真田 幸光 大学教員(連載1)英米関係と米国の民主主義について523月7日 真田 幸光 大学教員(連載2)英米関係と米国の民主主義について533月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党)児童養護施設退所後について543月10日 田村 秀男 ジャーナリスト膨張続ける中国マネー・バブル553月10日 倉西 雅子 政治学者フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題563月13日 真田 幸光 大学教員(連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	47	2月27日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) 孤児著作物
49 3月3日 20 推丁 図 20 操作 50 3月4日 20 雅子 政治学者 (連載2)「移民反対=ヘイト」の誤ったイメージ操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	48	2月28日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 孤児著作物
50 3月4日 月四 雅子 政治学者 操作 51 3月6日 真田 幸光 大学教員 (連載1)英米関係と米国の民主主義について 52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2)英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	49	3月3日	倉西 雅子	政治学者	
52 3月7日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 英米関係と米国の民主主義について 53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について	50	3月4日	倉西 雅子	政治学者	
53 3月9日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 児童養護施設退所後について 54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	51	3月6日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 英米関係と米国の民主主義について
54 3月10日 田村 秀男 ジャーナリスト 膨張続ける中国マネー・バブル 55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	52	3月7日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 英米関係と米国の民主主義について
55 3月10日 倉西 雅子 政治学者 フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題 56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	53	3月9日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	児童養護施設退所後について
56 3月13日 真田 幸光 大学教員 (連載1)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	54	3月10日	田村 秀男	ジャーナリスト	膨張続ける中国マネー・バブル
	55	3月10日	倉西 雅子	政治学者	フェミニストは移民に賛成?女性の受難問題
57 3月14日 真田 幸光 大学教員 (連載2)米中の狭間で動く韓国の苦悩について	56	3月13日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について
	57	3月14日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 米中の狭間で動く韓国の苦悩について

59 3月15日 真田 辛光 大学教員					
60 3月27日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) 弾道ミサイルと主権的権利 61 3月20日 宮西 雅子 政治学者 62 3月22日 真田 辛光 大学教員 (連載1) 中国本土の軍事的を動きについて 63 3月22日 真田 辛光 大学教員 (連載1) 中国本土の軍事的を動きについて 64 3月23日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) キブロスから見た諸問題 65 3月24日 宮田 幸之 大学教員 (連載1) 韓国本土の軍事的を動きについて 66 3月27日 宮田 雅子 政治学者 無法な日本学術会議 67 3月29日 宮田 幸光 大学教員 (連載2) キブロスから見た諸問題 68 3月29日 山晦 正晴 危機管理コンサルタント 北朝鮮核問題 69 3月30日 山晦 正晴 危機管理コンサルタント 北朝鮮核問題 69 3月30日 宮田 幸光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グルーブの動向について 69 3月30日 宮田 華光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グルーブの動向について 69 3月30日 宮田 華光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グルーブの動向について 70 3月3日 田 華光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グルーブの動向について 71 4月3日 加藤 成一 元介護士 北朝鮮の核保有容認は危険 72 4月4日 宮田 華光 大学教員 (連載2) 日本経済関係 73 4月5日 緒方林太郎 楽議院議員 (民進党) (達載2) 日本経済関係 74 4月101 宮田 華光 大学教員 (連載1) 甲県・経済関係 75 4月7日 宮田 華子 政治学者 (連載2) 中間のの字称交談に期待する 76 4月7日 宮田 華子 政治学者 (連載2) 中朝から見たアベノミクスについて 78 4月11日 宮田 華光 大学教員 (連載1) 中野から見たアベノミクスについて 78 4月11日 宮田 華光 大学教員 (連載2) 中朝から見たアベノミクスについて 78 4月11日 宮田 華光 大学教員 (連載2) 中国がおいる見たアベノミクスについて 79 4月12日 宮西 雅子 政治学者 ロ本国の移足政策を推進しているのは誰? 79 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) シリア情勢 82 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) シリア情勢 83 4月14日 宮田 華光 大学教員 (連載2) シリア情勢 84 4月2日 宮田 華光 安治学者 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対域について (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対域を収集の関係を受っの可能性 大学教員 (連載2) 北朝鮮とリアに対する米国、そして世界の対域を収集の事事・外交政策変勢と米国の威信20 4月27日 宮西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対域を収集の関係を受っの可能性 大学教員 (連載2) 北朝鮮とより子に対する米国、そして世界の対域を収集の関係を受っの可能性 (連載2) 北朝鮮とより子に対する米国、そして世界の対域を収集の事事・外交政策変勢と米国の威信 (連載2) 北朝鮮とより子に対する米国・アンフは、東部野による対日核攻撃の可能性 (連載2) 北朝鮮とより子に対する米国・アンフは、東部野による対日核攻撃の可能性 (連載2) 北朝鮮による国域調整措置 (東端2) 1 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 大学教員 (連載2) 1 北朝鮮による国域調整措置 (連載2) 1 北朝鮮とよる日域調整措置 (連載2) 1 北朝鮮とよる国域調整措置 (連載2) 1 北朝鮮とよる日域調整措置 (連載2) 1 日の対北制裁デア・アンインと巻歌が、大学教員 (連載2) 1 中国の対北制裁デア・アンコンを輸放する (連載2) 1 北野がよる (連載2) 1 日の財北制裁デア・アンコンを発売する (連載2) 1 日の財工・アンコン・アンコン・アンコン・アンコン・アンコン・アンコン・アンコン・アンコ	58	3月15日	倉西 雅子	政治学者	中国経済の"偽装自由化"は店仕舞いか?
6日 3月21日 貞田 幸光 大学教員 (連載1) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 年7 に大き教員 (連載2) 中国本土の軍事的な動きについて (連載2) 東国 三星グルーブの動向について (連載2) 中国・星光 大学教員 (連載2) 中国・星光 大学教員 (連載2) 日本経済関係 (連載2) 中国の空務交流に期待する (連載2) 中国の空務交流に期待する (連載2) 中国の空務交流に期待する (連載2) 中国の空務交流に期待する (連載2) 中国の空務交流に期待する (連載2) 中国の全務交流に期待する (連載2) 中国の全務交流に期待する (連載2) 中国の全務交流に期待する (連載2) 中国の発足受け入れは慎重に (連載2) 中国系および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に (連載2) 中国系および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に (連載2) リアイ博教 (連載2) リアイ博教 (連載2) リアイ博教 (連載2) リアイ博教 (連載2) リアイ博教 (連載2) リアイ財主の制定は (連載2) リアイ財主の表別 (連載2) リアイ財主の表別 (連載2) リアイ財主の表別 (連載2) リアイ財主の表別 (連載2) リアイ財主の表別 (連載2) リアイリエーの大会 (連載2) リアイリエーの大会 (連載2) リアイリエーの大会 (連載2) リアイリを表別 (連載2) リアイリエーの大会 (連載2) 中国の全員会質問 (医療ビッグデータ法) (連載2) 中国の会員会質問 (医療ビッグデータ法) (連載2) 中国の会員会員 (連載2) 中国の会員会員会員 (連載2) 中国の会員会員 (連載2) 中国の全員会員 (連載2) 中国の会員会員 (連載2) 中国の会員会員 (連述2) 中国の全員会員 (連述2) 中国の会員会員 (連述2) 中国の会員会員会員 (連述2) 中国の全員会員会員会員会員会員会員会会会員会員会会員会会会会員会会会会会会会会会会	59	3月15日	真田 幸光	大学教員	
62 3月21日 英田 辛光 大学教員	60	3月17日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	弾道ミサイルと主権的権利
63 3月32日 裏田 幸光 大学教目	61	3月20日	倉西 雅子	政治学者	メディアのトランプ政権批判
66 3 月23日 総方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) キブロスから見た諸問題 (会認 3 月27日 会西 雅子 政治学者 無情な日本学術会議 (連載2) キブロスから見た諸問題 会西 雅子 政治学者 (連載2) キブロスから見た諸問題 会西 雅子 政治学者 (連載2) 神国 三星グループの動向について 2 月3月3日 会田 幸光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日時 正晴 危機管理コンサルタント 北朝鮮核問題 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日時 東州 安治学者 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日時 東州 安治学者 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日時 東州 安光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日時 東州 安光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月4日 日前 東州 安光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 2 月7日 4月3日 第方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本経済関係 (連載1) 日本日本日本日の移民政策を推進しているのは誰? 中国での学術交流に期待する (連載1) 日本日の移民政策を推進しているのは誰? 中国系および南北コリアン系の移民受け入れば領重に 4月13日 会田 雅子 政治学者 日本国際フォーラム研究日 日本国の移民政策を推進しているのは誰? 日本国の移民政策を推進しているのは誰? (連載1) 日本日本国の移民政策を推進しているのは誰? (連載1) 日本日本国の移民政策を推進しているのは誰? (連載1) 日本日本国の移民政策を推進しているのは誰? (連載1) 日本日本国の教民受け入れば領重に (連載1) 日本日本国の教民受け入れば領重に (連載1) 日本日本国の教民受け入れば領重に (連載2) シリア情勢 (連載1) 日本日本国の財政を対所を認ってはずる米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮とよる国境調整措置 (日連2) 北朝鮮とよる国境調整措置 (日連2) 日本日本の財政を取り可能性 4月2日 会西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮とよる国境調整措置 (日本日 日本日本 安治学者 (連載2) 北朝鮮とよる国境調整措置 (2 世界) 日本日 安郎・学 文学教員 (2 世界) 日本日 安郎の可能性 トランブ政権による国境調整措置 (2 世党) 4月2日 第方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 北朝鮮とよる国境調整措置 (2 世党) 4月2日 第方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 北朝鮮とよる国境 2 日本日本の財政を取りの可能性 2 日本日本の財政を対するよりに対す	62	3月21日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 中国本土の軍事的な動きについて
66 3 月27日 台西 雅子 政治学者 (連載2) キプロスから見た諸問題 66 3 月29日 白西 雅子 政治学者 (連載2) 幸田 三星ケルーブの動向について 67 3 月29日 山崎 正晴 心機管理コンサルタント 北朝鮮株問題 68 3 月29日 山崎 正晴 心機管理コンサルタント 北朝鮮株問題 69 3 月30日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 韓国 三星ケルーブの動向について 70 3 月31日 台西 雅子 政治学者 天皇譲位 (退位) 問題 71 4月3日 加藤 成一元弁護士 北朝鮮休問題 大学教員 (連載2) 申国 大学教員 (連載2) 申国 大学教員 (連載2) 申国 大学教員 (連載2) 日本経済関係 大学教員 (連載2) 中國赤ら見たアベノミクスについて 78 4月1日 京田 幸光 大学教員 (連載2) 中韓から見たアベノミクスについて 78 4月1日 京田 幸光 大学教員 (連載2) 中韓から見たアベノミクスについて 79 4月10日 京田 華光 政治学者 日本国の移民政策を推進しているのは誰? 中国外および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に (連載2) 中国外よりアン系の移民受け入れは慎重に (連載2) リア情勢 大学教員 (連載2) シリア情勢 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 トランブ政権の軍事・外交政策の財能性 トランブ政権の軍事・外交政策等多と米国の威信について (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 トランク政権による国境測整措置 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 トランブ政権による国境測整措置 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 大学教員 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 大学教員 (連載2) 現前の世界秩序の変化の中での米国の動 4月28日 海田 幸光 大学教員 (連載2) 現前の世界秩序の変化の中での米国の動 (連載2) 現日の対北制裁デッドラインこそ警戒す (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒す (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこと警戒 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒 (連載2) 中国の対は対すな (連載2) 中国の対は (連載2) 中国の対は (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒 (連載2) 中国の対は (連載2) 中国の対は (連載2) 中国の対は (連載2) 中国の対は (連載2	63	3月22日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 中国本土の軍事的な動きについて
66 3月27日 倉西 雅子 政治学者 無情な日本学物会議 (連載1) 韓国 三星グループの動向について 68 3月29日 山崎 正晴 危機管理コンサルタント 北明鮮核問題 93 月30日 真田 辛光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グループの動向について 70 3月31日 倉西 雅子 政治学者 天皇譲位 (退位) 問題 71 4月3日 カ麻 成一 元介護士 北朝鮮の核保有容認は危険 72 4月4日 真田 辛光 大学教員 世界経済見通しについて 73 4月5日 緒方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 日米経済関係 74 4月6日 緒方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 日米経済関係 75 4月7日 台西 雅子 政治学者 核禁止条約は"核保有国"の陰謀では? 76 4月7日 治枢 爱子 早稲田大学教授 中国での学術交流に期待する 77 4月10日 真田 辛光 大学教員 (連載2) 中郷から見たアベノミクスについて 78 4月11日 貞田 華光 大学教員 (連載2) 中郷から見たアベノミクスについて 79 4月12日 台西 雅子 政治学者 日本国際フォーラム研究員 日本国の移民政策を推進しているのは誰舎 80 4月12日 治市 正章 政治学者 日本国際フォーラム研究員 日本国の移民政策を推進しているのは誰舎 81 4月14日 杉浦 正章 政治学者 日本国際フォーラム研究員 日本国の移民政策を推進しているのは誰舎 82 4月14日 杉浦 正章 政治学者 水道民で保は郵政民党化以上の大問題では? 83 4月14日 名西 雅子 政治学者 水道民で保は郵政民党化以上の大問題では? 84 4月15日 倉西 雅子 政治学者 水道民党に連収2) (連載2) リア信勢 85 4月18日 真田 辛光 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 辛光 大学教員 (東進2) (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) ル明鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 88 4月22日 緒方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) ル明鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 89 4月24日 名西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 80 4月24日 名西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 81 4月26日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 82 4月27日 杉浦 正章 政治学者 (連載2) 小間が最近との可能性 83 4月27日 杉浦 正章 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 84 4月27日 杉浦 正章 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 85 4月28日 発力・アンブ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信 87 4月28日 第方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 内間を員会質問 (医療ビッグデータ法) (連載2) 小間がによる対日核攻撃の可能性 87 4月28日 第方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 小間がほよる対日核攻撃の可能性 89 4月28日 第方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 小間が経による対日核攻撃の可能性 90 4月28日 第方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 小間が経による対日核攻撃の可能性 91 4月28日 第方林太郎 来議院議員 (民進党) (連載2) 小間が経じないているが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが経覚をいるが表述をいるが経覚	64	3月23日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) キプロスから見た諸問題
68 3月29日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 韓国 三星ケループの動向について 69 3月30日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 韓国 三星ケループの動向について 70 3月31日 倉西 雅子 大学教員 (連載2) 韓国 三星ケループの動向について 71 4月3日 加藤 坂一 元弁護士 北側鮮の核保有容認は危険 12 24月4日 3日 新方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) 日米経済関係 12 24月4日 2 24月4日	65	3月24日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載2) キプロスから見た諸問題
68	66	3月27日	倉西 雅子	政治学者	無情な日本学術会議
69 3月30日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 韓国 三星グルーブの動向について 70 3月31日 倉西 雅子 政治学者 天皇譲位 (退位) 問題 71 4月3日 加藤 成一 元方護士 北朝鮮の核保有容認は危険 北朝鮮の核保有容認は危険 世界経済見通しについて 73 4月5日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) 日来経済関係 74 4月6日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 日来経済関係 75 4月7日 倉西 雅子 政治学者 中国での学術交流に期待する 77 4月10日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 中國から見たアペノミクスについて 78 4月11日 貞田 幸光 大学教員 (連載1) 中國から見たアペノミクスについて 79 4月12日 倉西 雅子 政治学者 日本国際フォーラム研究員 自西 雅子 政治学者 日本国の移民政策を推進しているのは誰? 79 4月12日 倉西 雅子 政治学者 日本国際フォーラム研究員 14月13日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) シリア情勢 75 4月14日 移浦 正章 政治評論家 トランブ、対中改善に大きく前進 75 4月14日 移浦 正章 政治評論家 トランブ、対中改善に大きく前進 75 4月14日 8 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	67	3月29日	真田 幸光	大学教員	(連載1)韓国 三星グループの動向について
70	68	3月29日	山崎 正晴	危機管理コンサルタント	北朝鮮核問題
71 4月3日 加藤 成一 元弁護士	69	3月30日	真田 幸光	大学教員	(連載2)韓国 三星グループの動向について
72 4月4日 真田 幸光 大学教員 世界経済見通しについて 73 4月5日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)日米経済関係 74 4月6日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)日米経済関係 75 4月7日 池尾 愛子 早稲田大学教授 中国での学術交流に期待する 76 4月7日 真田 幸光 大学教員 (連載1)中韓から見たアベノミクスについて 78 4月11日 真田 幸光 大学教員 (連載2)中韓から見たアベノミクスについて 79 4月12日 倉西 雅子 政治学者 日本国の移民政策を推進しているのは誰? 81 4月13日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)シリア情勢 82 4月14日 終市 本立 政治学者 (連載1)シリア情勢 83 4月14日 終市 本立 衆議院議員(民進党) (連載2)シリア情勢 84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民管化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2)シリア情勢 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月2日 第方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対・アインテータ法 88 4月2日 第万林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 89 4月2日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)内閣委員会質問(医療ビッグデータ法)	70	3月31日	倉西 雅子	政治学者	天皇譲位(退位)問題
73	71	4月3日	加藤 成一	元弁護士	北朝鮮の核保有容認は危険
74 4月6日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)日米経済関係 75 4月7日 倉西 雅子 政治学者 核禁止条約は"核保有国"の陰謀では? 76 4月7日 池尾 愛子 早稲田大学教授 中国での学術交流に期待する 77 4月10日 真田 幸光 大学教員 (連載1)中韓から見たアベノミクスについて 78 4月11日 真田 幸光 大学教員 (連載2)中韓から見たアベノミクスについて 79 4月12日 倉西 雅子 政治学者 日本国際フォーラム研究員 80 4月12日 伊藤 将窓 日本国際フォーラム研究員 中国系および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に 81 4月13日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)シリア情勢 82 4月14日 杉浦 正章 政治学者 トランブ、対中改善に大きく前進 83 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載2)シリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月2日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 88 4月2日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 90 4月26日 真田 幸光 大学教員 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応を変勢の可能性 90 4月26日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 92 4月27日 持浦 北京	72	4月4日	真田 幸光	大学教員	世界経済見通しについて
75	73	4月5日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 日米経済関係
76	74	4月6日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 日米経済関係
77	75	4月7日	倉西 雅子	政治学者	核禁止条約は"核保有国"の陰謀では?
78	76	4月7日	池尾 愛子	早稲田大学教授	中国での学術交流に期待する
79	77	4月10日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 中韓から見たアベノミクスについて
80 4月12日 伊藤 将憲 日本国際フォーラム研究員 中国系および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に 81 4月13日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)シリア情勢 82 4月14日 杉浦 正章 政治評論家 トランプ、対中改善に大きく前進 83 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)シリア情勢 84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)トランブ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2)カランブ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)カランブ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 98 5月10日 倉西 雅子 政治学者	78	4月11日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 中韓から見たアベノミクスについて
81 4月13日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) シリア情勢 82 4月14日 杉浦 正章 政治評論家 トランブ、対中改善に大きく前進 83 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) シリア情勢 84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランプ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月10日 会西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すどきでは	79	4月12日	倉西 雅子	政治学者	日本国の移民政策を推進しているのは誰?
82 4月14日 杉浦 正章 政治評論家 トランブ、対中改善に大きく前進 83 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) シリア情勢 84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランブ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) トランブ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) トランブ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2) トランブ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 98 5月1日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	80	4月12日	伊藤 将憲	日本国際フォーラム研究員	中国系および南北コリアン系の移民受け入れは慎重に
83 4月14日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)シリア情勢 84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2)北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 (連載1)トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2)カランプ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 98 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	81	4月13日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) シリア情勢
84 4月17日 倉西 雅子 政治学者 水道民営化は郵政民営化以上の大問題では? 85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) 内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すでは 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒するのは、	82	4月14日	杉浦 正章	政治評論家	トランプ、対中改善に大きく前進
85 4月18日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 86 4月19日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について 87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) 内閣委員会質問(医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載2) ルランプ政権による国境調整措置 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 98 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	83	4月14日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載2) シリア情勢
Rの対応について	84	4月17日	倉西 雅子	政治学者	水道民営化は郵政民営化以上の大問題では?
87 4月21日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) 「連載1)内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法) 88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2)内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1)トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 98 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	85	4月18日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について
88 4月22日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) 内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法) 89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1) トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2) トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 98 5月1日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	86	4月19日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 北朝鮮とシリアに対する米国、そして世界の対応について
89 4月24日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1) トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2) トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月11日 金西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	87	4月21日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) 内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法)
90 4月25日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性 91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 98 5月1日 全西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	88	4月22日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載2) 内閣委員会質問 (医療ビッグデータ法)
91 4月26日 真田 幸光 大学教員 トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信について 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 安倍は政権の緩みを引き締めよ 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載1)トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月11日 全西 班子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒するでは	89	4月24日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性
91 4月26日 具田 辛尤 人字教員 92 4月27日 杉浦 正章 政治評論家 93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員(民進党) 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者	90	4月25日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 北朝鮮による対日核攻撃の可能性
93 4月27日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載1)トランプ政権による国境調整措置 94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月11日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒するでは	91	4月26日	真田 幸光	大学教員	トランプ政権の軍事・外交政策姿勢と米国の威信 について
94 4月28日 緒方林太郎 衆議院議員 (民進党) (連載2)トランプ政権による国境調整措置 95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月1日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒する。	92	4月27日	杉浦 正章	政治評論家	安倍は政権の緩みを引き締めよ
95 5月8日 真田 幸光 大学教員 (連載1)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 96 5月9日 真田 幸光 大学教員 (連載2)現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて 97 5月10日 倉西 雅子 政治学者 (連載1)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは 08 5月11日 倉西 雅子 政治学者 (連載2)中国の対北制裁デッドラインこそ警戒するでは	93	4月27日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) トランプ政権による国境調整措置
95 5月8日 東田 幸九 八字教員 きについて	94	4月28日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) トランプ政権による国境調整措置
90 5月9日 5日 7日 7日 1日 1日 1日 1日 1日 1	95	5月8日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて
97 5月10日	96	5月9日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 現行の世界秩序の変化の中での米国の動きについて
98 5月11日 倉西 雅子 政治学者 (連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは	97	5月10日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは
	98	5月11日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 中国の対北制裁デッドラインこそ警戒すべきでは

99	5月12日	真田 幸光	大学教員	日本がとるべき経済成長戦略について
100	5月15日	倉西 雅子	政治学者	(連載1)マクロン政権の行方
100	5月16日	倉西 雅子	政治学者	(連載2)マクロン政権の行方
101	5月17日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 韓国経済の現状について
102	5月18日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 韓国経済の現状について
		倉西 雅子		グローバル市場の覇者が共産国家というパラドクス
104	5月19日		政治学者 早稲田大学教授	グローバル化と政治選択
105	5月22日	池尾 愛子		
106	5月22日	鈴木 崇弘	城西国際大学大学院客員 教授	実験国家「ブータン」としての可能性と展望
107	5月25日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 皇室問題には国際的視点が必要では
108	5月26日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 皇室問題には国際的視点が必要では
109	5月26日	真田 幸光	大学教員	ロシアとイランの関係について
110	5月29日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) フランス革命の後遺症
111	5月30日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) フランス革命の後遺症
112	5月31日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 中国本土の覇権志向と軍事力について
113	6月1日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 中国本土の覇権志向と軍事力について
114	6月2日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	交付税特会借入金32.4兆円
115	6月5日	真田 幸光	大学教員	ASEAN について
116	6月6日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 保護主義は絶対悪なのか?
117	6月7日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 保護主義は絶対悪なのか?
118	6月8日	杉浦 正章	政治評論家	強まる「改憲・衆院ダブル投票」の公算
119	6月9日	川上 高司	拓殖大学教授	危険すぎるトランプのイラン外交
120	6月12日	倉西 雅子	政治学者	証明されていない地球温暖化の原因
121	6月14日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	フランス政治における「せり上げ」
122	6月15日	真田 幸光	大学教員	(連載1)NATOと米国トランプ大統領、そしてロシアと中国本土について
123	6月16日	真田 幸光	大学教員	(連載2) NATO と米国トランプ大統領、そしてロシアと中国本土について
124	6月19日	倉西 雅子	政治学者	マクロン大統領の EU 路線では仏国民負担増では?
125	6月21日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) テロ等準備罪
126	6月22日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) テロ等準備罪
127	6月23日	真田 幸光	大学教員	(連載1)「みちびき」について
128	6月24日	池尾 愛子	早稲田大学教授	グローバル化推進機関
129	6月24日	真田 幸光	大学教員	(連載2)「みちびき」について
130	6月26日	倉西 雅子	政治学者	一帯一路構想と南シナ海囲い込み
131	6月28日	真田 幸光	大学教員	アジア安全保障会議について
132	6月29日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	「加憲」の意味
133	6月29日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 日欧 EPA は TPP よりリスクが低い
134	6月30日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 日欧 EPA は TPP よりリスクが低い
135	7月4日	真田 幸光	大学教員	コモン・ローについて
136	7月5日	倉西 雅子	政治学者	米中対立の行方
137	7月6日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 日 EU 経済連携協定
138	7月7日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 日 EU 経済連携協定
139	7月10日	倉西 雅子	政治学者	アメリカが対北武力行使を選択する可能性
140	7月11日	真田 幸光	大学教員	(連載1) IMF について
141	7月12日	真田 幸光	大学教員	(連載2) IMF について
142		緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 鉄鋼の不当廉売課税

		*** * * * * * * * * * * * * * * * * * *	ALEXALEN (PART)	(Nickle -) At his and high Latings
143	7月15日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 鉄鋼の不当廉売課税
144	7月18日	真田 幸光	大学教員	(連載1)米韓関係について
145	7月19日	真田 幸光	大学教員	(連載2)米韓関係について
146	7月20日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 奇妙なキッシンジャー元国務長官の日本 嫌い
147	7月21日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 奇妙なキッシンジャー元国務長官の日本 嫌い
148	7月24日	真田 幸光	大学教員	(連載1) 日韓経済協力について
149	7月25日	真田 幸光	大学教員	(連載2) 日韓経済協力について
150	7月26日	倉西 雅子	政治学者	"文明の衝突"ではなく"文明と野蛮の衝突"では?
151	7月27日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 外務委員会質疑(日印原子力協定)
152	7月28日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 外務委員会質疑(日印原子力協定)
153	7月31日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 対北軍事制裁の現実味
154	8月1日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 対北軍事制裁の現実味
155	8月2日	真田 幸光	大学教員	国際化とこれに対する一部市民の反発について
156	8月3日	倉西 雅子	政治学者	習近平国家主席の"党主席"復活の狙いとは?
157	8月5日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1)「個人メモ」の危険性
158	8月6日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2)「個人メモ」の危険性
159	8月7日	倉西 雅子	政治学者	正直な AI が中国に革命をもたらす
160	8月9日	真田 幸光	大学教員	中国本土、知的財産権について
161	8月15日	池尾 愛子	早稲田大学教授	只野真葛に寄せて
162	8月22日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) テロに対する憤懣やるかたない思いについて
163	8月23日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) テロに対する憤懣やるかたない思いについて
164	8月24日	倉西 雅子	政治学者	ASEAN 諸国は法の保護を捨てるのか
165	8月25日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	請求権と外交的保護権
166	8月25日	倉西 雅子	政治学者	韓国人徴用工問題は常設仲裁裁判所での解決も選 択肢
167	8月28日	緒方林太郎	衆議院議員 (民進党)	(連載1) 北朝鮮のミサイル発射と存立危機事態
168	8月29日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 北朝鮮のミサイル発射と存立危機事態
169	8月30日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 北朝鮮問題の新たな分析枠組とは
170	8月31日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 北朝鮮問題の新たな分析枠組とは
171	9月4日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載1) 北朝鮮漁船と日韓漁業協定
172	9月5日	緒方林太郎	衆議院議員(民進党)	(連載2) 北朝鮮漁船と日韓漁業協定
173	9月6日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 領土拡張主義と特権グローバリズム
174	9月7日	杉浦 正章	政治評論家	日本核武装をめぐってホワイトハウス分裂状態
175	9月7日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 領土拡張主義と特権グローバリズム
176	9月11日	真田 幸光	大学教員	(連載1) ロシアについて
177	9月12日	真田 幸光	大学教員	(連載2) ロシアについて
178	9月13日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) 限界が露呈した中口の対北制裁協力
179	9月14日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) 限界が露呈した中口の対北制裁協力
180	9月19日	真田 幸光	大学教員	韓国経済について
181	9月20日	倉西 雅子	政治学者	(連載1) "平和の基礎"を守る武力行使 vs"平和的手段"による平和の破壊
182	9月21日	倉西 雅子	政治学者	(連載2) "平和の基礎"を守る武力行使 vs"平和的手段"による平和の破壊
183	9月22日	池尾 愛子	早稲田大学教授	中国山東省訪問

184	9月25日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 米朝"話し合い"路線のリスク
185	9月26日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 米朝"話し合い"路線のリスク
186	9月28日	真田	幸光	大学教員	(連載1) スウェーデンについて
187	9月28日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 北朝鮮問題
188	9月29日	真田	幸光	大学教員	(連載2) スウェーデンについて
189	9月29日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 北朝鮮問題
190	10月2日	真田	幸光	大学教員	(連載1) 第二次世界大戦前の日本と現在の北朝鮮について
191	10月3日	真田	幸光	大学教員	(連載2) 第二次世界大戦前の日本と現在の北朝鮮 について
192	10月5日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 米ラスベガス銃乱射事件と北朝鮮は関連するのか?
193	10月6日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 米ラスベガス銃乱射事件と北朝鮮は関連 するのか?
194	10月12日	真田	幸光	大学教員	韓国の経済政策について
195	10月12日	中村	仁	元全国紙記者	(連載1) 日米欧で最多の日本の選挙の弊害
196	10月12日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 教育無償化はマルクスのマニフェスト
197	10月13日	中村	仁	元全国紙記者	(連載2) 日米欧で最多の日本の選挙の弊害
198	10月13日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 教育無償化はマルクスのマニフェスト
199	10月16日	真田	幸光	大学教員	(連載1) 核兵器禁止の動きと韓国について
200	10月17日	真田	幸光	大学教員	(連載2) 核兵器禁止の動きと韓国について
201	10月18日	倉西	雅子	政治学者	コスモポリタンの前提は帝国主義
202	10月20日	中村	仁	元全国紙記者	(連載1) 選挙公約は成長戦略も教育無償も的外れ
203	10月21日	中村	仁	元全国紙記者	(連載2) 選挙公約は成長戦略も教育無償も的外れ
204	10月23日	真田	幸光	大学教員	(連載1) 北朝鮮情勢と米中露について
205	10月24日	真田	幸光	大学教員	(連載2) 北朝鮮情勢と米中露について
206	10月25日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 核兵器禁止条約より NPT の方が"まし" な理由
207	10月26日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 核兵器禁止条約より NPT の方が"まし" な理由
208	10月30日	真田	幸光	大学教員	(連載1) 米国の為替操作国と中韓について
209	10月31日	真田	幸光	大学教員	(連載2) 米国の為替操作国と中韓について
210	11月2日	倉西	雅子	政治学者	"戦略的棄権"もあり得るのでは?
211	11月7日	真田	幸光	大学教員	米中露の立ち位置とイランと北朝鮮について
212	11月8日	倉西	雅子	政治学者	"全世代型社会保障"とは社会・共産主義化のことでは?
213	11月10日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1) アフリカに北朝鮮制裁の「違反国」が目立つ理由
214	11月11日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2) アフリカに北朝鮮制裁の「違反国」が目立つ理由
215	11月11日	倉西	雅子	政治学者	北朝鮮の対日攻撃に集団的自衛権違憲論者はどの ように対応するのか
216	11月13日	大井	幸子	SAIL 代表	トランプ政権内部崩壊か
217	11月14日	真田	幸光	大学教員	(連載1)中国本土の「一帯一路」と「AIIB」のセット戦略化について
218	11月15日	真田	幸光	大学教員	(連載2)中国本土の「一帯一路」と「AIIB」のセット戦略化について
219	11月17日	倉西	雅子	政治学者	(連載1) 習近平国家主席は"ビッグ・ブラザー" か
220	11月18日	倉西	雅子	政治学者	(連載2) 習近平国家主席は"ビッグ・ブラザー" か

221	11月21日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1)「中東のバルカン半島」レバノンをめぐ る宗派対立
222	11月22日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2)「中東のバルカン半島」レバノンをめぐる宗派対立
223	11月24日	真田	幸光	大学教員	(連載1) シンガポールについて
224	11月25日	真田	幸光	大学教員	(連載2) シンガポールについて
225	11月27日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1)クーデタに揺れるジンバブエと中国の「二 股」戦術
226	11月28日	倉西	雅子	政治学者	EUと"一帯一路"の合わせ鏡に映る哀れなギリシャの姿
227	11月28日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2)クーデタに揺れるジンバブエと中国の「二 股」戦術
228	11月30日	真田	幸光	大学教員	IMF の見る韓国経済について
229	12月1日	倉西	雅子	政治学者	自衛隊が米軍による対北軍事制裁に参加するもう 一つの意義
230	12月5日	真田	幸光	大学教員	米国の威信について
231	12月5日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1) フランシスコ法王のミャンマー訪問がロ ヒンギャ問題に
232	12月6日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2) フランシスコ法王のミャンマー訪問がロ ヒンギャ問題に
233	12月7日	大井	幸子	SAIL 代表	ミレニアル世代はラストベルトを目指す
234	12月8日	倉西	雅子	政治学者	北朝鮮からの木造船漂着
235	12月11日	真田	幸光	大学教員	ドイツ情勢と欧州、世界情勢について
236	12月12日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1)「米国大使館のエルサレム移転」がふり まく火種
237	12月13日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2)「米国大使館のエルサレム移転」がふり まく火種
238	12月14日	倉西	雅子	政治学者	北朝鮮の"イスラムすり寄り"は無理
239	12月15日	大井	幸子	SAIL 代表	好調な米国経済の裏にあるリスク
240	12月17日	池尾	愛子	早稲田大学教授	儒教と日本の女性経済専門職
241	12月19日	真田	幸光	大学教員	(連載1) タイについて
242	12月20日	真田	幸光	大学教員	(連載2) タイについて
243	12月21日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載1) 米「エルサレム首都認定」で利益を得る 者
244	12月22日	六辻	彰二	横浜市立大学講師	(連載2) 米「エルサレム首都認定」で利益を得る 者
245	12月25日	倉西	雅子	政治学者	トランプ政権の「国家安全保障戦略」と日本国憲 法第9条
246	12月26日	大井	幸子	SAIL 代表	見えてきたトランプ「アメリカ第1主義」
247	12月27日	真田	幸光	大学教員	(連載1) 法定通貨について
248	12月28日	真田	幸光	大学教員	(連載2) 法定通貨について

5. 『グローバル・フォーラム会報』の発行

1994年1月1日に創刊された機関紙(季刊)で、当フォーラムの最新の活動内容を紹介すると同時に、ホー ムページ上の e - 論壇「議論百出」に寄せられた注目に値する好論文を紹介した「議論百出から」等のコラ ムを掲載している。当フォーラムのメンバーの他、精選されたわが国各界のオピニオン・リーダー約3千人 に配布されている。本年度は、次の4号が発行された。

グローバル・フォーラム会報 2017年冬季号 (第18巻第1号通巻第69号)



ローバル・フォーラム

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2017 Vol.18, No.1

「日中韓対話」開催さる 世界の中の日中韓関係はどうあるべきか

Cooperation Secretariat)との共催に コンチネンタルホテル東京において開 していくことを期待したい」 催した (写真)。当日は、国内外から

31日に三国政府公認のトラック2のシ 回開催されている一方、歴史認識、領 ンクタンク・ネットワーク「日中韓三国 協力研究所連合(Network of NTCTの国別代表者会議 (National Focal Points Meeting) が東京で開催 されることになり、この機会に今回の「対 局次長「国際社会においては、反グロー 話」が企画されることになった。とくに バル化、保護主義、英国のEU離脱、 注目された発言のみ、つぎのとおり。

れた第6回中日韓サミットでは、『北

グローバル・フォーラム (GFJ) は、 東アジアにおける平和と協力のための 日中韓三国協力事務局 (Trilateral 共同宣言』等6つの文書が採択され、 特に経済、農業、通商、環境、教育分 より日中韓対話「世界の中の日中韓関 野の協力を推進することで前進が見ら 係」を、さる9月21日、ANAインター れた。今後さらに三国間の協力が進展

○シン・ドンイク韓国国立外交院外交 100名を超える人々が出席し、議論した。 安保研究所所長「2008年以降 三国間 日中韓三国間では、すでに昨年8月 では、首脳会議が6回、外相会議が8 土問題、海洋および宇宙・サイバー空 今後三国間協力を拡大、強化したい」 米国のトランプ現象など、協力や協調 それだけに、今まさにシンクタンク間



の対話の促進・制度化が急務であ ○天児慧GFJ有識者メンバー(早稲 田大学教授)「日中韓三国の間では『過 間などの安全保障問題も顕在化してい去』という言葉がよく使われるが、こ Trilateral Cooperation Think-tanks: る。特に北朝鮮の核ミサイルは深刻だ。 の『過去』というのは、日本の侵略戦 NTCT)」が設立されているが、今般 三国共通の安全保障上の問題として、 争に集約されている。しかし、『過去』 とは日本による戦争だけでなく、戦後 ○イ・ジョンホン日中韓三国協力事務 から今日にいたるまで、三国間で積極 的な協力関係を構築してきたという 『渦去』もある。1998年の日韓および 日中の『共同宣言』は、そのことを指 ○ウェイ・リン中国外交学院アジア研 とは正反対の現象が顕在化している 摘している。2010年以降そのような『過 究所所長「昨年11月にソウルで開催さ が、北東アジアもまた例外ではない。 去』が三国の間で忘れ去られているよ うに見受けられるのは、残念だ」

米国新政権誕生と今後のアジアそして世界

第288回国際政経懇話会は、11月28 日、中山俊宏慶應義塾大学教授(写真 中央)を講師に招いて、「米国新政権 して、次のとおり講話を聴いた。

今年3月時点では、ブレグジットも トランプ氏選出も予測出来なかった。



ブレグジットを目の当りにした米国民 がトランプ氏を選ぶことは無いと我々 は思ったが、結局、米国民はトランプ 誕生と今後のアジアそして世界」と題 氏を選んだ。トランプ支持の背景には をツイートし続けて、本物感を出した。 トランプ氏こそ「ラスト・ベスト・ホー プ」と信じる、行き場を失った白人層 がいたが、その層を超えた支持を獲得

ただし、その選挙人選出の結果は 306人対232人でトランプ氏が勝利した ものの、総得票数ではクリントン氏が トランプ氏よりもおよそ280万票(もい」という発想がある。他方、それは しくはそれ以上)多く獲得しており、 トランプ氏勝利に過剰反応すべきでは

また、現在の米国大統領選挙戦にお いて、SNSは不可欠なツールである が、トランプ氏は、ツイッターで本音 他方、クリントン氏は(ディベートに は勝ったものの)その発言の背後には 常に選挙コンサルタントの計算を感じ るなど、有権者の心を掴めなかった。

外交安保政策だが、トランプ氏は「米 国の外の世界は穢れており、健康体で ある米国内に外の汚れを入れたくな 単純な孤立主義ではなく、突発的・ア ドホックな介入主義とのハイブリット になると思われる。



ローバル・フォーラム

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2017 Vol.18, No.2

世界との対話 「ウクライナ危機後の世界秩序」



2014年2月のロシアによるクリミア 併合に端を発するいわゆる「ウクライ ナ危機」は、冷戦後の欧州のみならず、 アジア太平洋を含む国際秩序全体に少 なからぬ影響を及ぼしている。この「危 機」を、第二次大戦後の国際社会の根 本規範である「力による現状変更の禁 止」への重大な挑戦とみる欧米諸国は、 一方で、1997年のNATO=ロシア基 本文書の遵守を踏まえ、ロシアを決定 的に追い込むことを慎重に避けなが ら、他方で、経済制裁やNATOの集 団防衛機能等を通じて、ロシアにその 態度の是正を迫っている。

その対立の構図は、あたかも「新冷 戦」ともいうべき様相を呈している。 今日、国際社会における「ルール・オ ブ・ザ・ゲーム」は、重大な岐路に直 面しているといっても過言ではない。 日本としても、改めて「ウクライナ危 機」の投げかける問題の本質を見極め、 世界各国とのより一層の緊密な戦略的 パートナーシップを強化しつつ、世界 および地域の平和と安定に向けた取り 組みを一層深化させる必要がある。

このような認識に基づいて、グロー バル・フォーラムは、米国大西洋協議 会、ウクライナ世界政策研究所などと の共催により、11月25日東京アイビー ホールにおいて「世界との対話:ウク ライナ危機後の欧州・アジア太平洋国 際秩序と日本」を開催した (上写真)。 当日は、海外よりの参加者を含め、

総勢76名が参加して、活発な議論が進 められたが、とくに注目された海外か らの出席者の発言のみ、次のとおり ○レオニード・リトラ世界政策研究所 よる不法なクリミア併合は「危機」で はなく、「侵略」である。今、ウクラ イナでは、不法な併合に加えて、ロシ アによるドンバス地域に対する軍事介 入も起こっている。

○ダリヤ・ハスペコヴァ・ロシア外交問 題評議会研究員(ロシア):ソ連の崩壊 が「欧米の勝利」と見做されていること によって、ロシア国内には不信感が募っ ている。ロシアは真の意味でヨーロッパ の一部にはなれなかった。ロシアと欧米 の間の分断は拡がるばかりである。

○イエルク・フォルブリック・ジャーマ ン・マーシャル基金フェロー(ドイツ): ロシアはクリミア併合の前に、ジョージ ア(旧グルジア)の一部を併合した。プー

チン大統領は、国内の経済状況などの 悪化の責任を西側諸国に転嫁し、欧米 諸国との対立を全面的なものとした。

○ロバート・ニューリック大西洋協議 上級研究員(ウクライナ):ロシアに 会上級研究員(米国):いまや米国の みならず欧州も、ロシアを地政学的な 脅威と見なしており、関係改善には長 い時間を要する。米国にとって、一番 大事なのは、NATO(北大西洋条約機 構) との連携強化である。西側諸国が 結束しているというメッセージをロシ アに送ることが大切だ。

> ○潘忠岐・復旦大学国際関係・公共行 政学院教授(中国): 今回のクリミア 危機は、北朝鮮の核問題とも繋がって いる。ウクライナは核を放棄したにも 関らず、国連はウクライナを守らな かった。そのため、北朝鮮は自衛のた めにも核兵器を持つべきだと考えるよ うになった。ウクライナ危機は北朝鮮 問題を深刻化させるかもしれない。

世話人会・拡大世話人会開催さる

新年恒例の第27回世話人会(朝食会) が1月13日に都内のホテルで開催され、 大河原良雄相談役のほか、小池百合子東 京都知事、浅尾慶一郎衆議院議員、柿沢 未途衆議院議員、伊藤剛明治大学教授、 伊藤憲一代表世話人、渡辺繭常任世話 人、高畑洋平事務局長などが出席した。

なお、この世話人会は第13回拡大世 話人会を兼ねて開催され、経済人メン バーの石川洋鹿島建設取締役副社長執 行役員 (写真左) なども出席した。

当日は、平成28年度の「活動報告案」 「収支決算案」、平成29年度の「活動計 画案」「収支予算案」のほか、「規約改 正案」も審議され、承認された。旧規 約では「国会議員世話人」であった小 池百合子東京都知事が、そのままでは

「世話人」としての資格を失うため、「国 会議員世話人」の名称を「政治家世話 人」に変更することが提案され、承認 された。これを受けて、小池百合子東 京都知事(写真右)より「皆様のご配 慮に感謝する。こういう時代だからこ そ、世界各国との対話のパイプが重要 であり、グローバル・フォーラムは正 にその出番である。私も引き続き微力 を尽くす」との挨拶がなされた



「2017年春季号」

グローバル・フォーラム会報 2017年夏季号 (第18巻第3号通巻第71号)



グローバル・フォーラム

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2017 Vol.18, No.3

日米対話「トランプ政権時代の日米同盟」



グローバル・フォーラム (GFJ) は、 米国防大学国家戦略研究所 (INSS) との共催により、さる3月3日東京で、 緊急対話「トランプ政権時代の日米同 盟:岐路か継続か」を開催した(写真)。 GFJは、1月中国、3月米国、6月 ASEANとの「対話」につづき、8月 には中央アジアとの「対話」を予定し ているが、今回3月3日の「日米対話」 では、トランプ政権の誕生をどのよう に位置づけるかが、出席した日米の専 門家たちの共通の問題意識となった。

INSS上席研究員、R・マニング米大 西洋協議会上級研究員、J・ショフ・ カーネギー国際平和財団上級研究員、 N・セーチェーニ米CSIS日本部副部 長の4名の米国側パネリストに加え、 日本側から神谷万丈GFJ有識者世話 人、中西寛GFJ有識者メンバー、細谷 雄一慶応義塾大学教授等97名の出席者 が参加し、議論した。

とくに注目された米側発言のみ、次 のとおり。

○マニング米大西洋協議会上級研究 員:グローバル化の進展とともに反グ ローバル化の動きが活性化している。 1990年代、グローバル化は世界を繁栄の 時代へと導き、主に中国およびインドで 10億人を貧困から解放した。しかし現在 グローバル化は、特に欧米でネガティブ に捉えられるようになった。その結果、 英国ではブレグジットが発生し、米国で もトランプ政権の誕生を招いた。いかに

アジア太平洋の安定と繁栄を確保する かが、現在の日米共涌の課題である。

○ショフ・カーネギー国際平和財団上 級研究員:「積極的日米同盟」のもた らす可能性について、アピールしたい。 アジア太平洋地域の安全保障について は、日米はより積極的にインドおよび 豪州と協力すべきである。

○プリスタップINSS上席研究員:日 米同盟は、日米共通の利益・価値をそ の基盤としている。そのことを両国民 はより深く認識しなければならない。 近年、日本が、安倍首相のもとで、東 南アジア諸国のキャパシティ・ビル ディングなどをとおして国際平和・安 全保障に果たす役割を拡大しているこ と、また、憲法の再解釈や2015年の日 米防衛ガイドラインの改訂など、自国 の安全保障に主体的に取り組んでいる ことは、日米同盟の強化につながり、 米国にとっても好ましいことである。

橋本·石川両世話人就任

当日は、来日したJ・プリスタップ

グローバル・フォーラムにおいては さる6月30日に第28回世話人会が開催 され、2月28日以降空席であった執行 世話人(他団体の理事長に相当)につ いて、橋本宏氏 (6月15日の日本国際 フォーラム理事会で理事長に選出)の 就任を決議した。

橋本新執行世話人は、駐米特命全権・ 公使、駐シンガポール大使、駐オース トリア大使などとして手腕を発揮した 練達の外交官として知られている。

章一郎、茂木友三郎両経済人世話人に 加え、新たに石川洋氏(鹿島建設副社 長兼当フォーラム経済人メンバー)を 3 人目の経済人世話人にお迎えするこ とも決議された。

橋本執行世話人挨拶

当フォーラムは、 これまで35年にわた り、民間レベルの自 由な立場で、国際秩 序のあるべき姿につ



いて世界各国との議論を継続してきま した。現在、国際社会では、米国の「世 界の警察官」的立場からの相対的な後 ・ た。加えて、これまで産政官学の論客 退、中国やロシア等の新興国の台頭と そのゲーム・チェンジャー的行動など、 これまでの国際秩序を大きく揺るがす また、同世話人会においては、豊田 現象が続き、それらの着地点がいまだ 見出しえない状況が続いています。こ のような流動的な国際情勢の下、当 フォーラムの役割は益々重要になって きております。引き続きご指導ご鞭撻 をよろしくお願い申し上げます。

石川経済人世話人挨拶

グローバル・フォー ラムは、これまで交 流や対話の実績を重 ねて人的ネットワー クを形成し、日本と



国際社会との間の諸問題について相互 理解を深めることに尽力してきまし が知見を持ち寄り熱心な議論を通じて 新たな価値を生み出してきましたが、 混迷する世界においてその役割は今後 一層重要になるものと考えておりま す。このたび私も世話人として新しい 役割を担うことになりました。皆様と ともにしっかりと取り組んでいく所存 であります。皆様の一層のご理解とご 支援をお願い申し上げます。

「2017年夏季号」



ローバル・フォーラム

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Autumn 2017 Vol.18, No.4

日·ASEAN対話 「アジア太平洋地域秩序と日・ASEAN協力」

グローバル・フォーラム (GFJ) は、 シンガポール南洋理工大学 (Nanyang Technological University: NTU), ベトナム国家大学 (Vietnam National University: VNU) および日本国際 フォーラム (JFIR) との共催、国際交 流基金アジアセンターの助成により、 6月30日、東京で「日・ASEAN対話: アジア太平洋地域秩序と日・ASEAN 協力」を開催した。

今日、アジア太平洋地域は、中国を はじめとする新興諸国の台頭によって 大きな変革期を迎えているが、この状 況に適切に対処しつつ、自由で開かれ たルール基盤の国際秩序を維持・発展 定)やRCEP(東アジア地域包括的経 させていくためには、日本とASEAN はなにをなすべきか。

そのような問題意識を踏まえ、当 フォーラムは2002年から「日・ ASEAN対話」を開催してきたが、今 回の「対話」で10回目を迎えた。

当日は、ASEANを代表して来日し たタン・シー・センNTU教授、アリ エス・A・アルゲイ・フィリピン大学 准教授、トーマス・ベンジャミン・ダ ニエル・マレーシアISIS研究員、ブイ・ タン・ナムVNU准教授、アイース・ ジンダルサ・インドネシアCSIS研究 員。カヴィ・チョンキッタヴォーン・ タイ安全保障国際問題研究所上級研究



議長の神谷万丈 GFJ 世話人(中央)

員の6名のASEAN側パネリストに加 え、日本側からも神谷万丈GFJ世話 人・防大教授、中西寛GFJ有識者メン バー・京大教授、細谷雄一慶応義塾大 学教授、大庭三枝東京理科大学教授等 9名のパネリストが参加した。ほかに 第三国からも54名が参加したところ、 とくに注目された発言は、以下のとお りであった。

○タン・シー・センNTU教授:世界 が反グローバリゼーションや保護主義 に向かいつつあるが、保護主義が完全 に勝利したわけではない。東アジアに はTPP(環太平洋パートナーシップ協 済連携) などの枠組みがあるが、これ らがポピュリズムや保護主義に対抗す る代替案になっている。

○中西寛京都大学教授:昨年6月から アジア太平洋地域を巡る戦略環境は急 速に変化してきている。フィリピンで はドゥテルテ大統領の選出により、従 来の日米協力を重視する外交政策から の脱却が見られる。今後、日本は TPP11とRCEPを共に推進し、自由貿 易強化の姿勢を示すとともに、南シナ 海の周辺諸国と協力し、海洋ガバナン スの強化にも努める必要がある。

○トーマス・ベンジャミン・ダニエル・ マレーシアISIS研究員: アジア太平 洋地域の涂 上国のプライオリティは経 済発展と繁栄にあり、中国はそこを突 いてきている。小国が具体的な内容が なくても中国の「一帯一路」を支持し ているのはそのあたりに理由があるの ではないか。

○細谷雄一慶応義塾大学教授:これま での日本は、法の支配、軍縮・核不拡 散などを軸にして同地域へのコミット



会場で熱心に聴き入る参加者たち メントを展開してきたが、今後の日本 は、自国に欠けている防衛能力の強化 などが求められるのではないか。

○大庭三枝東京理科大学教授:日本と ASEANには地域情勢を巡って認識の ギャップがある。すなわち、日本の対 ASEAN政策の強化には、中国への牽 制の意味合いが強く、ASEANそのも のを見ていない。今こそ、日・ ASEAN双方にとって望ましい地域ビ ジョンの見直しが急務である。

○アイース・ジンダルサ・インドネシ アCSIS研究員:米国はオバマ政権下 でリバランス戦略を維持すべくTPP を推進してきたが、トランプ政権下で は同政策を踏襲せず、米国はアジア太 平洋地域におけるコミットメントを低 下させている。しかし、これはアジア の安定にとってリスクだとしても、日・ ASEAN協力の強化にとってはオポ チュニティになる側面もある。

イ安全保障国際問題研究所上級研究 員: 日・ASEAN協力において重要な 点は、日・ASEAN双方の政策立案者 におけるマインドセットの変革、日・ ASEAN間のハイレベル協議の実施、 サイバーセキュリティ等における技術 協力や、対テロ政策の協力、若者同士 の関係強化の4点である。

○カヴィ・チョンキッタヴォーン・タ

「2017年秋季号」

6. ホームページの運営(日本語・英語)

(1) 日本語版ホームページ

日本語版トップページ(http://www.jfir.or.jp)にe-論壇「議論百出」を開設しているほか、『グローバル・フォーラム会報』や「対話」の「報告書」も掲載するなど、当フォーラムの活動内容を対外的に発信している。



(2) 英語版ホームページ

英語版トップページ(http://www.gfj.jp/e/)(下写真)に、「対話」の概要を英訳して掲載するほか、「GFJ Commentary」欄を開設し、全世界に向けて当フォーラムの活動内容を発信している。



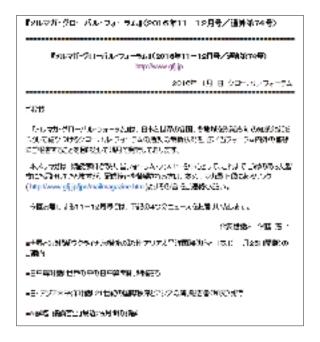
なお、過去3年間に e -論壇「議論百出」から英訳されて「GFJ Commentary」に転載された記事は以下のとおりであった。

No.	Date	Author	Title
1	February 17, 2015	TAKAMINE Koushu	Japan as the Key Actor to Strengthen US-Indian Partnership
2	April 27, 2015	OGATA Rintaro	Inherent Difficulties of Standing in "Middle of the Road"
3	June 29, 2015	TSUMORI Shigeru	Does the US Assume Japan and China Agree to Reshelf the Senkaku Issue?
4	August 31, 2015	KURANISHI Masako	Greece and Korea-Analogy of the two peninsulas
5	October 31, 2015	TANIMOTO Taku	Prime Minister ABE Should Retract His Pledge to Mark "A Departure from the Post-war Regime"
6	December 30, 2015	KAWAKAMI Takashi	The presence of U.S. and Russia lent weight to G20
7	February 25, 2016	KURANISHI Masako	Terrorism causes prejudice and discrimination against Muslims-the collective responsibility of Muslims
8	April 12, 2016	KATO Seiichi	Japan Should Hold and Secure "Potential Nuclear Capability"
9	June 28, 2016	KURANISHI Masako	Can The Path Really Teach About the Good Life?
10	August 31, 2016	TAMURA Hideo	Shadow of Mr. Soros Behind the Helicopter Money Debates in Japan
11	October 31, 2016	IKEO Aiko	A Feedback to the Trilateral Dialogue of China, Japan and South Korea
12	December 19, 2016	SANADA Yukimitsu	Internationalization of the Renminbi
13	February 23, 2017	KURANISHI Masako	On Social Darwinism of Today
14	April 24, 2017	Jun. M. YAMAZAKI	Nuclear Issue of North Korea
15	June 15, 2017	ITO Masanori	Be cautious about letting Chinese and Korean immigrants in Japan
16	August 23, 2017	OGATA Rintaro	The Meaning of "Kaken" or Adding New Articles to the Present Constitution of Japan
17	October 30, 2017	SUGIURA Masaaki	The White House Splits over Japanese Nuclearization
18	December 21, 2017	NAKAMURA Jin	2017 Election Manifestoes on Growth Strategy and Free Education Missing the Points

7. メールマガジンの発行(日本語・英語)

(1) 『メルマガ・グローバル・フォーラム』

日本語によるメールマガジン『メルマガ・グローバル・フォーラム』(奇数月1日発行)で、全国約1万人の登録者に配信している。毎号、当フォーラムの最新の活動を伝えるニュースとe – 論壇「議論百出」の直近2ヶ月間の全投稿の紹介等から構成されている。



(2) **GFJ E-Letter**

英語によるメールマガジン『GFJ E-Letter』(偶数月1日発行)で、全世界約1万人の登録者に配信されている。毎号「GFJ Commentary」、「GFJ Updates」等から構成されている。



8. 出版刊行

本年度において実施した4つの「対話」につき、その速記録等を収録した『報告書』を以下のとおりそれ ぞれ刊行した。これら『報告書』等の全文は、同時に当フォーラムのホームページにも掲載され、無料で閲 覧可能である。

「対話」『報告書』の刊行



『日中対話報告書』



『日米対話報告書』



『日・ASEAN 対話報告書』



『中央アジア+日本対話報告書』

IV. An Introduction to GFJ

1.	Greetings ·····	46
2.	Objectives and History	47
3.	Organization ·····	47
4.	History ·····	47
5.	"Dialogues" of GFJ	48
6.	Internet Activities	51

1. Greetings



Chairman's Greeting, ITO Kenichi

The Global Forum of Japan is a policy-oriented organization for intellectual exchanges, which originates from the "Quadrangular Forum" established in Washington in 1982 on the initiative of independent groups of citizens from the political, business, official, and academic circles of Japan, the U.S., Europe, and Canada. The "Quadrangular Forum" itself completed its mission with the "end of cold war" and dissolved itself in 1990. However, the members of the "Japan Chapter" of the "Quadrangular Forum" re-established itself as the "Global Forum of Japan (GFJ), "an institution that organized "Dialogues" with Japan as a hub for all countries in the world, From then on, as one of the few organizations specialized in international exchanges with a view to expanding Japan's network with the rest of the world, the "Global Forum of Japan" has steadily organized "Dialogues" with various countries and regions of the world. With the dawn of the 21st century, the world has entered into a phase of ever-intensifying turbulence. Under the circumstance, with a firm belief that continuity is a might, GFJ makes steady steps to fulfill the mission of deepening mutual understanding between the world and Japan.



President's Greeting, WATANABE Mayu

It is my honor and privilege to assume the role of President of The Global Forum of Japan (GFJ). Enlisting your support and advice, I wish to endeavor with all my might to carry out the duties expected of me at this prestigious organization. Today, the world has fallen into disarray of an unprecedented scale, in which various challenges are being made against the existing international order which has long been the linchpin of peace and prosperity of the international community since the end of the World War II. For the past 35 years since its inception, GFJ has not only proactively organized exchanges and dialogues with major players of the world including the U.S., China and ASEAN, but also taken the lead in advancing track-2 diplomacy with strategic hinges for Japan such as Central Asia and Black Sea, thereby establishing a robust network around the globe. As this network could be regarded as an indispensable asset to the enhancement of Japan's presence and influence in the international community, the role of GFJ will be even more important in this time of turmoil. Before closing my remarks, let me hope that you will continue to provide us with your support and cooperation.

2. Objectives and History

The Global Forum of Japan (GFJ) originates from the Japan Chapter of the Quadrangular Forum (QF), which was established in 1982 in Washington to serve as an informal promoter of the exchange of policy-oriented views and opinions among Japan, US, Europe, and Canada. As the Cold War ended and its aftermath faded away, QF ceased its activity in 1996. The Japan Chapter of QF survived the vicissitudes and developed into the Global Forum of Japan (GFJ) as an independent institution of Japan for international intellectual exchanges. Since then, GFJ has been active a sa hub for international exchanges with the global intellectual community at large.

3. Organization

The Global Forum of Japan (GFJ) is a private, non-profit, non-partisan, and independent membership organization in Japan. Business Member, Political Member, and Academic Member support its activities as Governors and Members. The Secretariat is housed in The Japan Forum on International Relations. GFJ is currently headed by ITO Kenichi as Chairman, WATANABE Mayu as President and TAKAHATA Yohei as VicePresident. The membership is composed of 10 Business Members including the 4 Governors, ISHIKAWA Hiroshi, MOGI Yuzaburo, TOYODA Shoichiro and YAGUCHI Toshikazu, 10 Political Members including the 5 Governors, FUNADA Hajime, KAKIZAWA Mito, KOIKE Yuriko, SUEMATSU Yoshinori and SUZUKI Keisuke; and 50 Academic Members including the 3 Governors, ITO Go, KAMIYA Matake and TAKAHARA Akio.

4. History

The 1982 Versailles Summit was widely seen as having exposed rifts within the Western alliance. Accordingly, there were expressed concerns that the summit meetings were becoming more and more stylized rituals and that Western solidarity was at risk. Within this context, it was realized that to revitalize the summit meetings there must be free and unfettered exchanges of private-sector views to be transmitted directly to the heads of the participating states.

Accordingly, Japanese former Foreign Minister OKITA Saburo, U.S. Trade Representative William BROCK, E.C. Commission Vice President Etienne DAVIGNON, and Canadian Trade Minister Edward LUMLEY, as representatives of the private-sector in their respective countries, took the initiative in founding The Quadrangular Forum in Washington in September 1982. Since then, the end of the

Cold War and the altered nature of the economic summits themselves had made it necessary for The Quadrangular Forum to metamorphose into The Global Forum established by the American and Japanese components of The Quadrangular Forum at the World Convention in Washington in October 1991.

In line with its objectives as stated above, The Global Forum was intended as a facilitator of global consensus on the many post-Cold War issues facing the international community and reached out to open its discussions not only to participants from the quadrangular countries but also to participants from other parts of the world. Over the years, the gravity of The Global Forum's activities gradually shifted from its American component (housed in The Center for Strategic and International Studies) to its Japanese component (housed in The Japan Forum on International Relations), and, after the American component ceased to be operative, the Board of Trustees of the Japanese component resolved, on February 7, 1996, that it would thereafter act as an independent body for organizing bilateral dialogues with Japan as a hub for all countries in the world, and amended its by-laws accordingly. At the same time, The Global Forum's Japanese component was reorganized into The Global Forum of Japan (GFJ) in line with the principle that the organization be self-governing, self-financing, and independent of any other organization.

5. "Dialogues" of GFJ

Since the start of The Global Forum of Japan (GFJ) in 1982, GFJ has shifted its focus from the exchanges with the Quadrangular countries for the purpose of contributing to the Western Summit, to those with neighboring countries in the Asia-Pacific region including US, China, Korea, ASEAN countries, India and Australia European countries, Wider Black Sea Area, for the purposes of deepening mutual understanding and contributing to the formation of international order. GFJ has been active in collaboration with international exchange organizations in those countries in organizing policy-oriented intellectual exchanges called "Dialogue." In order to secure substantial number of Japanese participants in the "Dialogue", GFJ in principle holds these "Dialogues" in Tokyo. A listing of topics of "Dialogues" and its overseas co-sponsors in past years given below.

Year	Month	Themes	Counterparts
2018	February	The Dialogue with the World	The French Institute for International and Strategic Affairs
	August	Central Asia + Japan Dialogue	the Ministry of Foreign Affairs
2017	June	The Japan-ASEAN Dialogue	The S. Rajaratoam School of International Stadies Nanyang Tachnological University, Singapore

2017	March	Japan-U.S. Dialogue "The Japan-U.S. Alliance in the Era of the Trump Administration: Crossroads or Continuity?"	
	February	Japan-China Dialogue "Prospect of Japan-China Cooperation in Aging Society"	Shanghai International Studies University/ Shanghai Academy of Social Sciences/ Fudan University (China)
	December	Emergency Dialogue "After the July 12 PCA (Permanent Court of Arbitration) Verdict: The Future of Maritime Asia"	Meiji Institute of International Policy Studies (MIIPS) Meiji Institute for Global Affairs(MIGA)
	November	The Dialogue with the World "The International Order in Europe and Asia-Pacific after the Ukraine Crisis and Japan's Course of Action"	The Institute of World Policy (IWP) The Atlantic Council's Brent Scowcroft Center (BSC)
2016	September	Japan-China-ROK Dialogue "Japan-China-ROK Relations in the Global Perspective"	Trilateral Cooperation Secretariat (TCS)
	July	The Japan-Asia Pacific Dialogue "International Order in the 21st Century and the Security of Maritime Asia"	Western Sydney University Meiji Institute for Global Affairs (MIGA) Meiji Institute of International Policy Studies (MIIPS)
	March	The Japan-U.S. Dialogue "Evolving the Japan-U.S. Alliance in a Turbulent Time of Transition: Sustaining the Open, Rulesbased Global Order"	Institute for National Strategic Studies (INSS) of National Defense University (NDU)
	December	Japan-East Asia Dialogue "A New Horizon of Regional Cooperation in East Asia -Overcoming the Age of Complex Risk"	
	September	Japan-China Dialogue "Toward a Future- Oriented Relationship"	China Institutes of Contemporary International Relations
2015	July	The Second Japan-GUAM Dialogue "The Japan-GUAM Relationship in the Changing World"	
	March	Central Asia + Japan Symposium	the Ministry of Foreign Affairs The University of Tokyo
		The Japan-U.S. Dialogue "Alliance in a New Defense Guideline Era"	Institute for National Strategic Studies, National Defense University
	February	Japan-East Asia Dialogue "What Should We Do toward Reliable International Relations in Asia?"	School of Public Affairs, Zhejiang University the Albert Del Rosario Institute for Strategic and International Studies
2014	December	The Japan-Asia Pacific Dialogue "The Asia-Pacific in Global Power Transition: How Many Great Powers?"	Meiji University, University of Western Sydney
	May	The Japan-China Dialogue "Prospect of Japan - China Relationship in the Changing World"	
	March	The Japan-U.S. Dialogue "The Japan-U. S. Alliance in Changing International and Domestic Environments"	

		The Japan-China Dialogue "Toward Building	The Japan Forum on International
2014	January	Confidence Between Japan and China in 'New Domains"	
2013	October	The Dialogue with the World "Toward the Making of Shared Values in Foreign Policy"	Washington College International Studies Program
	May	The Japan-GUAM Dialogue "Future Prospect of the Japan-GUAM Partnership for Democracy and Economic Development"	GUAM-Organization for Democracy and Economic Development
	February	The Japan-Black Sea Area Dialogue "How to Develop Japan and Black Sea Area Cooperation"	
	January	The Japan-China Dialogue "Toward a Future-Oriented Japan-China Relationship"	School of Environment, World Resources Institute, College of Public Administration, Zhejiang University
	September	Japan-U.S. Dialogue "Japan-U.S. Alliance at a New Stage: Toward a Provider of International Public Goods"	_
	March	The Japan-ASEAN Dialogue "The Future of ASEAN Integration and Japan's Role"	ASEAN Institutes of Strategic and International Studies
2012		The Dialogue with the World "The Rise of Emerging Countries and the Future of Global Governance"	-
	February	The Japan-U.SChina Dialogue "The Asia-Pacific Region in Transition and the Japan-U.SChina Relations"	_
	October	The Japan-China Dialogue "The Japan-China Relations at Crossroads"	China Institutes of Contemporary International Relations (CICIR)
2011	July	Emergency Dialogue "The Great East Japan Earthquake and Regional Cooperation on Disaster Management"	-
2011	February	The Japan-East Asia Dialogue "East Asia in Transition and New Perspectives on Regional Cooperation"	
		The Japan-U.S. Dialogue "The Japan-U.S. Relations in the Era of Smart Power"	The Center for Strategic and International Studies (CSIS)
	September	The Japan-India Dialogue "East Asian Regional Architectures and Japan-India Relations"	The Federation of India Chambers of Commerce and Industry (FICCI)
2010	May	The Japan-U.S. Dialogue "Promoting Japan-U.S. Cooperation in Non-Traditional Security: the Case of Counter Piracy"	The National Bureau of Asian Research (NBR)
	February	The Japan-China Dialogue Convened to Discuss "Promoting Japan-China Cooperation on Environmental Issues of the 21st Century: In Pursuit of Recycling Society"	School of Environment, Beijing Normal University, China
	January	The 3rd Japan-BLACK SEA Area Dialogue "Prospects of Changing Black Sea Area and Role of Japan"	

2009	September	The 8th Japan-ASEAN Dialogue "Japan-ASEAN Cooperation amid the Financial and Economic Crisis"	
	June	The Japan-China Dialogue "Prospect of Japan-China Relationship in the Changing World"	
	April	The 2nd Japan-U.S. Dialogue "US- Japan Relations Under the New Obama Administration"	
2008	September	The 7th Japan-ASEAN Dialogue "Prospect of Japan-ASEAN Partnership after the Second Joint Statement on East Asia Cooperation"	
	July	The Japan-China Dialogue "Japan-China Relations, Making a New Stage"	The China Institutes of Contemporary International Relations (CICIR)
	June	Japan-East Asia Dialogue "Cooperation in Environment and Energy"	The Council on East Asian Community (CEAC) The East Asian Institute of National University of Singapore (EAI)
	January	The 2nd Japan-U.SAsia Dialogue "An East Asian Community and the US"	The Council on East Asian Community (CEAC) The Pacific Forum CSIS

6. Internet Activities

Another important pillar of GFJ's activities is the BBS "Giron-Hyakusyutsu (Hundred Views in Full Perspective)" (http://www.gfj.jp/cgi/m-bbs/) which started on April 7, 2006. The BBS, which started on April 12, 2006, is open to the public, functioning as an interactive forum for discussions on foreign policy and international affairs. All articles posted on the BBS are sent through the bimonthly e-mail magazine "Merumaga Grōbal Fōramu" in Japanese to about 10,000 readers in Japan. Furthermore, articles worth attention for foreigners are translated into English and posted on the English website of GFJ (http://www.gfj.jp/eng.htm) as "GFJ Commentary." They are also introduced in the e-mail magazine "GFJ E-Letter" in English. "GFJ E-Letter" is delivered bimonthly to about 10,000 readers worldwide.

The GFJ's sister organizations of The Japan Forum on International Relations (JFIR) and The Council on East Asian Community (CEAC) have their own BBS of "Hyakka-Seiho (Hundred Flowers in Full Bloom)" and "Hyakka-Somei (Hundred Ducks in Full Voice)." Each of the troika BBS is visited by about 10,000 visitors daily. It means that the troika system of BBS is visited by about 10 million visitors annually even though many of them are repeaters.

グローバル・フォーラムのご案内 Introduction to The Global Forum of Japan (GFJ)

2018年2月1日

発 行 人 渡辺 繭

編 集 人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301 電話 (03) 3584-2190 FAX (03) 3505-4406 E-mail gfj@gfj.jp URL http://www.gfj.jp/

